

## 令和 6 年度事業報告

	拠点区分等名称	ページ
①	社会福祉法人中央福祉会 重点事業	1
	特別養護老人ホーム三思園(短期入所含む)	3
②	デイサービスセンター三思園	13
	居宅介護支援事業所三思園	17
③	特別養護老人ホーム勝田三思園(短期入所含む)	20
④	幼保連携型認定こども園中央文化保育園	31
⑤	幼保連携型認定こども園浦町保育園	40

※①～③：別添「令和6年度 事業評価」参照

令和6年度 社会福祉法人中央福社会 重点事業評価

1	法人理念の実践と深化 ー法改正、社会・経済状況等を踏まえ、法人理念の具体化を意識した中長期計画の進行管理・評価を実施し、法人内での共有を図る
	実習生や面接受験者等、法人外での認知度向上が感じられ、周知活動を継続する。
2	危機管理・コンプライアンスの徹底 ー事故や感染症等の緊急事案発生時における対応を法人内において共有し、強化を図る ー地域と協働し、災害に強い施設づくりに努める
	高齢者施設において、感染症を含めた発災時におけるBCP(事業継続計画)の作成し、保育施設での作成・検討に着手しています。計画に沿った訓練を通じ、災害等への対応力を高める事業に継続して取り組みます。
3	安定した財務と持続可能な経営に努める ー収入と支出のバランス・経費削減・計画的な施設整備及び改修等
	人件費及び光熱費等の運営コストを常時見直し、適正な収支計画に沿った運営を目指すとともに、収益性を高める事業実施に努めます。
4	地域との交流・相互連携を深め、地域から必要とされる施設づくりを進める
	地域交流や世代間交流における交流及び連携の実施とともに、社会貢献活動や地域から求められる支援機能の充実に努めます。
5	学園と社会福祉法人が連携し、相乗効果を創出する ー学園と連携し、多方面に渡る福祉経営等の新しい取り組みに挑戦し、県内のパイオニアを目指す ー実習生等へ専門職の理想像(知識・技術・心(愛あれ、知恵あれ、真実あれ))を伝えることで、技術に留まらず、精神や理念の育成を図る
	高齢者施設での業務体験活動を通じた福祉教育を実施し、福祉人材の育成に努めています。また、各事業や実習を通じた連携を維持し、学園との共同研究等の取り組みの発展を目指します。
6	内部・外部の研修受講等を通して人材育成を図り、日々の業務に活用、成果を見出す
	法人内でのキャリアアップ・スキルアップの機会について充実化を図り、『成長』に意欲的に取り組める職場・風土づくりに努めています。
7	福祉分野における国際化に対する調査・研究を行う
	海外人材受け入れに係る説明会や研修会に参加、他事業所での受け入れ実績について、情報収集に努めています。

8	人材が定着しやすい仕組み・環境を整える －育成・評価の手法の深化を図り、多様な人材の確保のための環境整備に努める
	メンタルヘルス対策や多様な働き方が可能となる職場環境づくりに注力し、人材の定着率向上、離職率低減について取り組みます。
9	介護、看護、保育、事務等における各業務の効率化を図る －ICT活用・介護ロボット導入に係る情報収集・検討を実施する
	業務の効率化、省力化を目指し、ペーパーレス化の推進、各システム・ロボット等の適正使用を図っており、関係法令の確認と併せた取り組みを継続します。
10	健康経営への取り組み －職員が健康を維持し、その能力を十分に発揮できる仕組み・環境づくり
	育児休業取得の推進やワークライフバランスに配慮した勤務時間の見直し等、安心して働ける職場環境の実現に向けた対応を進めます。

1 基本方針・運営方針

- ① 人生の最終段階を迎えてからも、最後まで尊厳を保ち、穏やかな気持ちで生活できるよう支援します。
- ② 地域貢献を通じ、身近に感じられる施設を自指します。
- ③ 学生との共働により、新たなサービスを展開し、食と心の豊かさの増進に努めます。

2 中期的な計画と推進策

計画・課題	推進策	実施状況・今後の方針等
質の高いサービス提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>①尊厳のある個別ケアの実現</li> <li>②医療的ケア・看取り介護の充実</li> <li>③要望・嗜好・機能に合わせた食事の提供</li> <li>④維持期・人生の最終段階における効果的なりハビリ実践</li> <li>⑤多職種協働・連携および他職種の理解</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①身体拘束の該当者なし。介護リーダーを中心とした個別ケアの実践に取り組んだ。</li> <li>②入所者の変化に応じた ACP（人生会議）の開催、看取りの振り返り（事例毎）を継続し、9名の看取り実施。</li> <li>③感染症対策に努めながら、個々の要望・嗜好・機能に合わせ、柔軟に対応した。</li> <li>④除圧・安楽な体勢作り等、苦痛の緩和や精神的安定を図った。</li> <li>⑤細やかな情報共有により多職種協働・連携に繋げ、他職種理解に努めた。</li> </ul>
環境整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>①施設修繕・補修等の実施計画・実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ケアの効率性や BCP（災害・感染症）を視野に入れた設備修繕等を実施した。ICTの活用により担い手不足を補い、生産性の向上に繋げた。</li> </ul>
地域福祉の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>①社会貢献活動の強化</li> <li>②地域福祉・医療機関との連携</li> <li>③法人独自の地域サービス展開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①法人本部と連携し、青森しあわせネットワークや ACP（人生会議）の普及・啓発活動を継続した。</li> <li>②横内まちづくり協議会（横内町会）が主催する行事等に積極的に参加した。また協力医療機関との顔の見える関係性を継続した。</li> <li>③法人本部と連携し、デスクカフェの運営を継続して行った。</li> </ul>
福祉人材の確保・育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>①人事評価を生かした指導・教育体制の構築</li> <li>②キャリアパス・給与体系・評価制度の充実</li> <li>③適正な人員配置・人事異動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①人事評価や面談を継続し、個々の意識改革と資質の向上に繋げた。</li> <li>②法人本部と連携し、キャリアパス・給与形態・評価制度の見直しを図った。</li> <li>③個々の能力や欠員の状況に合わせた人員配置・人事異動を行った。</li> </ul>
法人連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 学生・実習生・園児との協働</li> <li>② 法人の情報共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①実習生・ワークサポート等の受け入れや園児との協働（行事）を継続し、多世代交流を図った。</li> <li>②施設長・相談員会議を定期開催し、法人内の情報共有に努めた。</li> </ul>
効果的かつ安定した経営	<ul style="list-style-type: none"> <li>①取得加算の維持・見直し</li> <li>②稼働率の維持・向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①取得状況を定期的に施設全体により確認</li> <li>②新規入所者（利用者）の獲得、看取りケアの継続により、稼働率の維持・向上に繋げた。</li> </ul>

# 三思園入所者比較表

(令和7年3月31日現在)

	入所者数 (人)		入所可能数 (日)		利用実数 (日)		利用率 (%)		収入 ※食費・居住費・入所者負担含む		
	計		計		R5年度	R6年度	R5年度	R6年度	R5年度	R6年度	前年度比
	R5年度	R6年度	R5年度	R6年度							
4月	50	48	1500	1500	1454	1417	96.9	94.4	18,388,082	18,303,927	-84,155
5月	50	50	1550	1550	1519	1512	98	97.5	19,063,334	19,522,661	459,327
6月	52	50	1500	1500	1460	1482	97.3	98.8	18,495,399	19,304,064	808,665
7月	50	50	1550	1550	1502	1544	96.9	99.6	19,125,726	19,764,309	638,583
8月	50	50	1550	1550	1511	1499	97.4	96.7	19,022,396	20,005,939	983,543
9月	50	49	1500	1500	1500	1407	100	93.8	19,251,215	18,377,639	-873,576
10月	50	49	1550	1550	1550	1461	100	94.2	19,685,246	18,567,234	-1,118,012
11月	50	49	1500	1500	1500	1437	100	95.8	19,051,915	18,615,889	-436,026
12月	50	50	1550	1550	1547	1539	99.8	99.2	19,650,971	19,883,139	232,168
1月	52	50	1550	1550	1494	1550	96.3	100	19,065,446	20,006,574	941,128
2月	50	50	1450	1400	1382	1358	95.3	97	17,378,074	17,510,321	132,247
3月	48	49	1550	1550	1474	1506	95	97.1	19,083,846	19,433,684	349,838
計	602	594	18300	18250	17893	17712	1173	1164	227,261,650	229,295,380	2,033,730
平均	50.2	49.5	1525	1520.8	1491.1	1476	97.7	97	18,938,471	19,107,948	169,478

# R6年度 入所者の諸状況

令和7年3月31日現在

## (1) 入退所状況

月	入所			退所		
	男	女	計	男	女	計
4	1	0	1	0	0	0
5	1	1	2	0	0	0
6	0	0	0	0	0	0
7	0	0	0	0	1	1
8	1	0	1	0	2	2
9	0	1	1	0	2	2
10	1	1	2	0	2	2
11	0	2	2	0	0	0
12	1	0	1	0	0	0
1	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	2	2
3	0	1	1	0	0	0
計	5	6	11	0	9	9

## (2) 退所理由状況

理由	長期入院		家族引き取り		他施設へ入所		病院で死亡		看取り		計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
計(人)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	0	9
	0		0		0		0		9		9	

## (3) 入所前居住状況

居住場所	家族と同居		病院		老健・特養		有料・GH		ショート		計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
計(人)	0	4	1	1	1	0	2	0	1	1	5	5
	4		2		1		2		2		11	

## (4) 介護度認定状況

介護度	要介護3		要介護4		要介護5		計	
	男	女	男	女	男	女	男	女
計(人)	0	1	4	18	6	20	10	39
	1		22		26		49	

※平均介護度4.5

## (5) 在園者年齢状況

年齢	(人)		
	男	女	計
65歳未満	0	0	0
65歳～69歳	0	0	0
70歳～79歳	3	5	8
80歳～89歳	4	16	20
90歳以上	3	18	21
合計	10	39	49

(歳)		
平均年齢		
男	77.4	85.9
女	88.2	
	最高	最少
男	98	72
女	103	72

# R6年度 利用者の諸状況

令和7年3月31日現在

## (1) 利用者状況

(人)

	令和5年度 利用者合計		うち新規利用者		契約解除者					
	男	女	男	女	本園入所		他施設入所等		死去	
性別	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
計	8	11	6	3	1	1	0	1	0	0
	19		9		2		1		0	

## (2) 新規利用者加入状況

(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男	2	0	0	0	0	1	0	2	0	0	1	0	6
女	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	3
計	2	1	0	1	0	1	0	2	0	1	1	0	9

## (3) 利用者家族状況

(人)

	1人暮らし	配偶者と2人	子と2人	家族と同居	その他	計
男	2	0	2	4	0	8
女	2	0	2	7	0	11
計	4	0	4	11	0	19

## (4) 介護度状況

(人)

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
男	0	0	0	3	1	3	1	8
女	0	0	0	0	2	4	5	11
計	0	0	0	3	3	7	6	19

(歳)

	平均年齢	
男	84	87
女	89.1	

(歳)

	最高年齢	最低年齢
男	98	56
女	101	73

# 三思園短期入所利用者比較表

(令和7年3月31日現在)

	利用者数 (人)						利用可能数 (日)						利用実数 (日) ※空床利用 含む		利用率 (%)		収入 ※食費・居住費・利用者負担含む		
	男		女		計		4床		空床		計		R5年度	R6年度	R5年度	R6年度	R5年度	R6年度	前年度比
	R5年度	R6年度	R5年度	R6年度	R5年度	R6年度	R5年度	R6年度	R5年度	R6年度	R5年度	R6年度							
4月	2	4	8	6	10	10	120	120	46	83	166	203	152	187	91.5	92.1	1,784,190	2,296,395	512,205
5月	2	2	7	8	9	10	124	124	31	38	155	162	149	160	96.1	98.7	1,928,417	1,983,598	55,181
6月	2	2	7	6	9	8	120	120	40	18	160	138	142	135	88.7	95	1,648,750	1,629,690	-19,060
7月	2	2	8	8	10	10	124	124	48	6	172	130	146	130	84.8	100	1,816,112	1,622,480	-193,632
8月	2	3	7	7	9	10	124	124	39	51	163	175	141	167	86.5	95.4	1,639,010	2,399,500	760,490
9月	2	2	5	8	7	10	120	120	0	90	120	210	122	164	100	78.1	1,400,755	2,068,135	667,380
10月	2	3	7	6	9	9	124	124	0	89	124	213	124	129	100	60.5	1,527,901	1,913,380	385,479
11月	2	4	6	5	8	9	120	120	0	63	120	183	120	145	100	79.2	1,377,215	1,894,628	517,413
12月	2	4	7	4	9	8	124	124	3	11	127	135	124	143	97.6	100	1,469,265	1,649,469	180,204
1月 月遅 2件	2	2	7	6	9	8	124	124	56	0	180	124	151	124	83.8	100	1,724,110	1,728,822	4,712
2月	1	3	8	5	9	8	116	112	68	42	184	154	153	124	83.1	80.5	1,442,345	1,287,623	-154,722
3月	2	3	9	6	11	9	124	124	76	44	200	168	186	144	93	85.7	2,508,133	1,891,445	-616,688
計	23	34	86	75	109	109	1464	1460	407	535	1871	1995	1710	1752	1105	1065	20,266,203	22,365,165	2,098,962
平均	1.9	2.8	7.2	6.3	9.1	9.1	122	122	33.9	44.6	156	166	143	146	92.1	88.8	1,688,850	1,863,764	174,914

# 看 護

R7年3月31日現在

## (1) 職員健康診断結果の概況

		A異常なし	B、C要指導	D要医療	E治療継続	合計
第1回	5月2日	9人	19人	10人	11人	49人
第2回	11月25日	1人	7人	4人	3人	15人

※夜勤をする者は年2回の健康診断が必要である。

## (2) 職員の腰痛発症状況（腰に負担のかかる業務に従事する者）

	調査数	腰痛なし	腰痛あるが経過観察	腰痛があり通院
R5.5	61人	40人	20人	1人
R5.11	60人	37人	19人	4人

## (3) 感染症発症状況

	職 員	入所者	合 計
インフルエンザウイルスA、B	0人	0人	0人
ノロウイルス	0人	0人	0人
疥 癬	0人	0人	0人
新型コロナウイルス	8人	21人	29人

(みなし陽性を含む)

## (4) 入所者の褥瘡発症状況

	4月～6月		7月～9月		10月～12月		1月～3月	
	発症	治癒	発症	治癒	発症	治癒	発症	治癒
人数	4人	3人	2人	1人	4人	2人	4人	3人
率	8.0%		4.0%		8.0%		8.0%	

## (5) 入所者の入退院状況

	男	女	合 計
青森県立中央病院	0人	0人	0人
青森市民病院	0人	0人	0人
あおもり協立病院	0人	1人	1人
青森新都市病院	0人	0人	0人
芙蓉会村上病院	0人	0人	0人
芙蓉会病院	0人	0人	0人
小 計	0人	1人	1人

## (6) 死亡状況

	男	女	合 計
病院で逝去された	0人	0人	0人
看取りを実施された	0人	9人	9人

	午前	午後	夜間、早朝	深夜	合 計
看取り死亡時間帯	1人	3人	1人	4人	9人

午前=8:30～11:59 午後=12:00～17:59 夜間=18:00～21:59 早朝=5:00～8:29 深夜:22:00～4:59

## (7) 基礎看護学実習Ⅰ 青森中央学院大学看護学部1年実習生受け入れ人数

	8/3～8/10	合 計
人数	午前・午後	40人

## (8) 老年看護学Ⅱ 青森中央学院大学看護学部3年実習生受け入れ人数

	1クール	2クール	3クール	4クール	5クール	追加(1日)	合計
人数	6人	6人	5人	8人	10人	1人	36人

## (9) 園内及び園外での講師派遣状況

園 内	ZOOMランチョンセミナー排泄エコー (EAファーマ主催)
園 外	老年看護学Ⅱ (青森中央学院大学看護学部3年)・EOLケア論 (左同1年)
	デスカフェどせばいいカード (東京都小金井市)
	日本死の臨床研究会 ポスター発表 (札幌市)
	日本尊厳死協会関西支部 どせばいい?カード (京都市)

月	栄養リスク評価			補助食品 提供人数
	低リスク	中リスク (内経管栄養)	高リスク	
4月	12人	29人 (6人)	6人	10人
5月	13人	29人 (7人)	7人	16人
6月	14人	32人 (7人)	4人	16人
7月	12人	34人 (7人)	4人	17人
8月	10人	37人 (7人)	2人	15人
9月	14人	31人 (6人)	1人	15人
10月	7人	36人 (6人)	2人	14人
11月	16人	31人 (6人)	1人	14人
12月	13人	34人 (6人)	2人	15人
1月	15人	32人 (6人)	3人	16人
2月	12人	35人 (6人)	3人	17人
3月	15人	31人 (6人)	3人	18人

※経管栄養者は体重減少等がなくても中リスク判定となる

※補助食品は飲料(エンシュアH)・ゼリー(エンジョイゼリープラス)、MCTオイルの提供者

食事形態状況

形態	主食			副食				経管栄養	
	ご飯	全粥	ミキサー粥	常食	一口大	粗刻み	ソフト食		ミキサー
人数	13人	18人	13人	6人	7人	9人	16人	6人	6人

令和6年度 行事食実施状況

実施日	行事食 (献立)	実施日	行事食 (献立)
4/8	お楽しみ献立(桜エビと豆の御飯)	10/7	お楽しみ献立(山菜御飯)
4/12	麺メニュー きつねうどん	10/15	麺メニュー 醤油ラーメン
4/17	お楽しみ献立(たけのこ御飯)	10/18	お楽しみ献立(栗御飯)
4/25	お楽しみ献立(桜御飯)	10/29	手作りおやつ(焼きりんご)
5/2	五目ちらし(端午の節句)	10/31	お楽しみ献立(きのことツナの炊き込み御飯)
5/15	園創立記念弁当&ムースケーキ	11/6	お楽しみ献立(さつまいも御飯)
5/21	麺メニュー 味噌ラーメン	11/11	麺メニュー 肉うどん
5/28	お楽しみ献立(とうもろこし御飯)	11/21	お楽しみ献立(ちらし寿司)
6/7	お楽しみ献立(カレーピラフ、クリームクロック)	11/26	お楽しみ献立(卵雑炊)
6/13	お楽しみ献立(梅とひじきの炊き込み御飯)	12/11	麺メニュー 味噌ラーメン
6/19	麺メニュー(カレー南蛮うどん)	12/24	クリスマス会(エビピラフ、ミートローフ)&ケーキ
6/24	お楽しみ献立(三色そばろ井)	12/26	餅つき会(ミルクもち、あんこペースト)
7/8	七夕そうめん	12/27	御用納め弁当(ゆかり御飯、カレイ付焼、たまごしんじょう他)
7/19	お楽しみ献立(鮭混ぜごはん、夏野菜の天ぷら)	12/31	年越しそば
7/24	土用の丑の日(うな井)	1/1	三が日(赤飯、のし鶏、茶碗蒸し他)
7/30	手づくりアイス	1/3	三が日(はらこ飯)
8/1	麺メニュー(冷やし中華)	1/7	七草がゆの日
8/13	精進料理(赤飯、煮しめ)	1/16	お楽しみ献立(いなり寿司)
8/23	お楽しみ献立(オムライス)	1/22	麺メニュー カレーうどん
8/28	夏祭り(焼きそば、フランクフルト、チョコバナナ他)	2/3	節分(卵巻寿司)
9/4	お楽しみ献立(ちらし寿司)	2/18	お楽しみ献立(豆御飯)
青森中央短期大学食物栄養学科おやつ提供	9/10 にんじんケーキ 9/11 かぼちゃプリン	2/26	お楽しみ献立(あさり御飯)
		2/28	麺メニュー かきたまにゆめん
		3/3	ひな祭り(ちらし寿司)&生菓子
9/17	敬老の日(赤飯、天ぷら)	3/13	お楽しみ献立(山菜おこわ)
9/20	秋彼岸法要会(菜飯御飯、味噌田楽、煮しめ)	3/19	春彼岸法要会(おにぎり、ぼたもち)
9/27	麺メニュー(親子うどん)	2/27	麺メニュー チャーシュー麺

# R6年度 個別機能訓練等 実施状況

令和7年3月31日現在

(1) 個別機能訓練

月	実施日数	実施回数
4	14	54
5	19	62
6	18	73
7	20	94
8	20	92
9	15	83
10	20	100
11	20	116
12	22	112
1	20	95
2	18	89
3	20	106
計	226	1,076

(2) ベッド上リハビリ

月	実施日数	実施回数
4	15	38
5	18	43
6	10	33
7	16	45
8	15	37
9	11	40
10	15	39
11	15	38
12	13	35
1	15	38
2	14	33
3	14	38
計	171	457

(3) 集団体操

月	実施日数	実施回数
4	15	207
5	19	259
6	18	275
7	20	292
8	15	212
9	13	144
10	15	206
11	18	250
12	17	229
1	14	207
2	12	173
3	19	291
計	195	2,745

(4) 生活リハビリ

月	実施日数	実施回数
4	30	5,769
5	31	5,850
6	30	5,741
7	31	6,167
8	31	6,153
9	30	5,551
10	31	5,575
11	30	5,533
12	31	5,997
1	31	5,909
2	28	5,363
3	31	5,895
計	365	69,503

(1) 個別機能訓練

機能訓練室やホール、居室などにおいて、マッサージや関節可動域訓練、体操や上下肢運動、訓練用平行棒や手すり、歩行器を使用しての立ち上がりや立位保持、歩行訓練などを行っています。ボードトレーナーやペグボードなど、リハビリ用品を使用し、手指及び上肢の運動も行っています。

(2) ベッド上リハビリ

居室ベッドにて頸肩部や四肢マッサージ、四肢関節可動域訓練、クッション等を使用し、ポジショニング調整を実施。

(3) 集団体操

運動機能の維持や他者との交流を目的に、定時の時間帯で上下肢の体操や座位バランス訓練を取り入れた内容を実施。

(4) 生活リハビリ

日常生活全般をリハビリと捉え、自立を目的とし移動や移乗・食事・排泄・入浴など、生活の中の日常生活動作や、おしぼりやエプロンたたみ等の軽作業、ベッド臥床時の除圧・体位変換・ポジショニング調整や、車椅子乗車時のシーティングなど、日常生活の一部として生活リハビリを実施。

日付	参加者	内容
R6年5月16日(木)	阿部一樹 高橋進一 橋本るみ 多賀谷健一 増田里美	院内におけるACPの進め方
R6年5月21日(火)	算用子遥 伊澤ミカ 安田美奈子	令和6年度 介護職員の口腔ケアに対する知識・技術の習得、口腔衛生管理体制の研修会(オンライン)
R6年5月23日(火)	阿部一樹	福祉の仕事“あれこれ”出前講座
R6年5月28日(火)	阿部一樹	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ
R6年5月28日(火) ～6月14日(金)	奥寺真由子	2024年度 ユニットリーダー研修(eラーニング)(オンライン)(実地研修)
R6年5月29日(水)	高橋大治郎 阿部一樹 太田大輔 高橋進一	第5回 ケアテックス仙台2024
R6年6月5日(水) ～7月12日(金)	増田里美	2024年度 ユニットリーダー研修(eラーニング)(オンライン)(実地研修)
R6年8月17.18日(土.日)	阿部一樹 高橋進一	第5回 死生観を語り合うひととき
R6年8月22日(木)	松尾佳菜 十文字瀬奈	社会人のための 青森明の星短期大学リカレント講座 「リーダーとしての資質」
R6年8月29日(木)	金本元気	社会人のための 青森明の星短期大学リカレント講座 「マナーのブラッシュアップ」
R6年9月14日(土)	阿部一樹 多賀谷健一	五所川原市「認知症フォーラム」における「どせばいい?カード体験会」
R6年9月14日(土)	高橋進一 橋本るみ	展示ブースでの「どせばいい?カード」の紹介・実施
R6年9月25日(水)	算用子遥	令和6年度 特定給食施設等研修会
R6年9月26日(木)	算用子遥	令和6年度 栄養・食育マネジメントセミナー(オンライン)
R6年6/19.20.21.24.25.26.27.28 7/20.21.8/29.9/29	奥寺真由子	令和6年度 青森県喀痰吸引等研修(第一号、第二号研修)基本研修
R6年7/2.7/20.21 8/29.9/29	十文字瀬奈	令和6年度 青森県喀痰吸引等研修(第一号、第二号研修)基本研修
R6年10月12日(土)～ R6年10月13日(日)	高橋進一 阿部一樹 多賀谷健一	第47回 日本死の臨床研究会 年次大会
R6年10月18日(金)	松尾佳菜 藤田絢弥 盛田景子	口腔衛生管理体制計画の研修会 「一生おいしく食べてもらうために」
R6年10月19日(土)	高橋進一 阿部一樹 多賀谷健一	令和6年度 「本人の意思を尊重した意思決定のための研修会」
R6年10月19日(土)	増田里美 橋本るみ	令和7年度 「本人の意思を尊重した意思決定のための研修会」

日付	参加者	内容
R6年10月23日(水)	橋本るみ	つくしが丘病院 認知症疾患医療センター ・ 住友
R6年10月7日(月)～ R6年10月24日	阿部一樹 高橋進一 鎌田由紀 須藤美沙希	どせばいい?カードを使って「人生会議疑似体験」
R6年10月31日(木)	阿部一樹	「ソーシャルワークの基盤と専門職」講義(オンライン)
R6年11月5,6日(火,水)	高橋進一	症例提示「いのちの質を問われた事例」
R6年11月9日(土)	阿部一樹 高橋進一 多賀谷健一 増田里美	コラボデスカフェ 弘前豊徳会×ココキャン×中央福祉会
R6年11月12日(火)	増田里美 奥寺真由子	「介護の快護化」に向けたスキントラブル予防の実践レクチャー！(オンライン)
R6年11月15日(金)	阿部一樹 高橋進一 鎌田由紀 橋本るみ 増田里美	「アドバンス・ケア・プランニング(ACP)の理解 ～どせばいい?カードで人生会議の類似体験～」
R6年11月16日(土)	阿部一樹	アドバンス・ケア・プランニング ～患者の意思を尊重した医療・ケアのために～
R6年12月13日(金)	阿部一樹 高橋進一 鎌田由紀 橋本るみ	「アドバンス・ケア・プランニング(ACP)の理解 ～どせばいい?カードで人生会議の類似体験してみよう～」
R6年12月15日(日)	阿部一樹	2024年度 地域緩和ケア連携調査員研修
R6年12月20日(金)	阿部一樹 高橋進一 橋本るみ 小西貴士	「どせばいい?カードでACP(人生会議)の疑似体験」
R7年1月23日(木)	松尾佳菜 算用子選	介護職員の口腔ケアに対する知識・技術の習得、口腔衛生管理体制の研修会
R7年1月23日(木)	阿部一樹 多賀谷健一 橋本るみ 安田美奈子	「東北町地域ケア会議・在宅医療介護関係者研修会」 アドバンス・ケア・プランニング(ACP)の理解 ～どせばいい?カードで人生会議を疑似体験してみよう～」

1 基本方針・運営方針

- ①質の高いサービス・業務の充実を図る
- ②危機管理を徹底する
- ③地域連携を図り、福祉の地域還元を図る
- ④学校法人と社会福祉法人の連携により、相乗効果を図る
- ⑤職員の定着しやすい環境づくりを行う

2 中期的な計画と推進策

計画・課題	推進策	実施状況・今後の方針等
質の高いサービス提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>①個別ケアの実践（利用者ニーズの把握）</li> <li>②各委員会活動の充実</li> <li>③多職種連携の深化</li> <li>④情報共有に関してシステム（ほのぼの）から LINEWORKS を活用した情報共有への移行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①本人の状態・意向の把握に努め、個別援助計画を随時見直しし、個別ケアの実践を図った。</li> <li>②継続 自分の属する委員会活動に積極的に関わった。</li> <li>③各職種にて情報共有を密にし、細やかな連携が図れた。</li> <li>④LINEWORKS の活用により、日々の細かな変化、状況の共有が迅速に確実に成り、記録も効率化された。</li> </ul>
環境整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>①施設修繕・補修等の実施計画・実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①和室襖の修繕を行い、開閉がスムーズになったことで事故や怪我の防止に繋がった。</li> </ul>
働きやすい職場環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>①認証評価取得等に向けた環境改善</li> <li>②人事評価の賃金等への反映を通じた意欲向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①現状での取得は困難であるものの、継続して検討及び環境改善を行う</li> </ul>
運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>①取得加算の維持・見直し</li> <li>②稼働率の維持・向上</li> <li>③コストを意識した運営の徹底</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①職員配置等の観点から、新たな加算の取得はないものの維持、見直しを適宜に行う。</li> <li>②登録人数を余分に設定し、稼働率向上に努めたが、年間を通してショートステイ利用での休みが多く見られる。また、後期は感染症や、入院の休みが多く見られ、平均利用率は85%となり、昨年度より稼働率が減少となる。来年度は、新規利用者獲得のため新たな圏域居宅へ事業所をアピールし、稼働率 90%を目指す。</li> <li>③現状を共有し、コスト意識に努めた。</li> </ul>
福祉人材の確保・育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>①人事評価を活用した指導・教育体制の構築</li> <li>②キャリアパス・給与体系・評価制度の充実</li> <li>③適正な人員配置・人事異動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①定期的な OJT の実施。個々の現状、希望などを把握、必要なアドバイスを行った。</li> <li>②継続 キャリアアップに向けて、各種研修参加を促した。</li> <li>③職員希望にて適宜に異動や業務分担の見直しを実施。</li> </ul>

# デイサービス利用者比較表

月	事業名	令和5年度					令和6年度					対前年度比利用者増減(%)	対前年度比利用者増減(人)	前年度比介護請求と利用者負担額の合計(円)
		開所日数(日)	利用者数(人)	総利用者数	一日平均	介護請求と利用者負担額の合計(消費税除く)	開所日数(日)	利用者数(人)	総利用者数	一日平均	介護請求と利用者負担額の合計(消費税除く)			
4月	通所介護	20	272	302	15.2	2,664,050	22	264	296	13.4	2,522,100	98%	-6	-141,950
	介護予防通所介護相当事業	20	30			210,090	22	32			178,610			-31,480
5月	通所介護	22	321	353	16	3,315,680	23	283	315	13.6	2,710,740	89%	-48	-604,940
	介護予防通所介護相当事業	22	32			177,200	23	32			139,670			-37,530
6月	通所介護	22	311	353	16	3,027,820	20	253	288	14.4	2,420,840	81%	-65	-606,980
	介護予防通所介護相当事業	22	42			1008	20	35			899			212,509
7月	通所介護	21	291	332	15.8	2,737,390	23	296	337	14.6	2,792,210	101%	5	54,820
	介護予防通所介護相当事業	21	41			1340	23	41			1236			181,580
8月	通所介護	23	288	324	14	2,874,930	22	270	303	13.7	2,552,610	93%	-21	-322,320
	介護予防通所介護相当事業	23	36			1664	22	33			1539			184,170
9月	通所介護	21	276	296	14	2,599,193	22	271	311	14.1	2,561,680	105%	15	-37,513
	介護予防通所介護相当事業	21	36			1976	22	40			1850			180,280
10月	通所介護	22	285	320	15	3,062,093	23	306	345	15	2,932,724	107%	25	-129,369
	介護予防通所介護相当事業	22	35			2296	23	39			2195			181,580
11月	通所介護	22	273	321	15	2,730,440	21	266	301	14.3	2,573,980	93%	-20	-156,460
	介護予防通所介護相当事業	22	48			2617	21	34			2496			188,630
12月	通所介護	21	228	262	13.4	2,191,010	21	272	317	15	2,654,380	120%	55	463,370
	介護予防通所介護相当事業	21	34			2879	21	45			2813			223,480
1月	通所介護	21	269	298	14.2	2,814,364	21	190	227	11	1,910,094	76%	-71	-904,270
	介護予防通所介護相当事業	21	29			3177	21	37			3040			203,750
2月	通所介護	21	272	305	14.5	2,758,920	20	198	236	11.8	2,199,512	77%	-69	-559,408
	介護予防通所介護相当事業	21	33			3482	20	38			3276			220,880
3月	通所介護	21	274	306	14.5	2,719,053	21	218	264	12.5	2,248,650	86%	42	-470,403
	介護予防通所介護相当事業	21	32			3788	21	46			3540			224,780
合計	通所介護	257	3360	3788	14.7	33,494,943	259	3087	10826		30,079,520	94%	-158	-3,415,423
	介護予防通所介護相当事業	257	428			2,289,265	259	452			2,319,919			-25,302
		257	3788	3788	14.7	35,784,208	257	3788			32,399,439			-3,440,723

# 利用者諸状況

令和7年3月末

## (1) 登録者利用状況

登録者		利用者		非利用者	
男	女	男	女	男	女
7人	36人	7人	36人	0人	0人

## (2) 登録者介護度別状況

介護度	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	
男	0	0	2	3	1	0	0	6人
女	1	5	8	8	8	4	3	37人
計	1	5	10	11	9	4	3	43人

## (3) 利用者家族状況

区分	一人暮らし	老夫婦のみ	家族同居	その他	計
男	1人	1人	4人	0人	6人
女	7人	2人	20人	8人	37人
計	8人	3人	24人	8人	43人

## (4) デイサービス利用者年齢状況

平均年齢		
男	80.5	84
女	87	

	最高年齢	最少年齢
男	93歳	55歳
女	100歳	72歳

## 令和6年度 年間行事・外出 実施状況

月 日	行 事 名	場 所	参加者 (人)
4月16日	園外散歩	三思園外苑	7
4月17. 18. 19. 22. 23	お花見会外出	合浦公園	31
5月8日	青森中央短期大学公開講座「伊奈かつべい」	青森中央短期大学学術交流会館	6
5月15日	園創立記念日	デイホール	8
5月20日	三思園農園準備開始	三思園農園	16
5月24日	ラインメール応援宣言	デイホール	15
6月7日	三思園農園苗植え	三思園農園	8
6月11日	園外散歩	三思園外苑	14
6月24日	誕生日外出、外食	焼肉ひがしやま	1
6月28日	七夕交流飾りつけ	三思園玄関	2
7月1日	誕生日外出、外食	幸楽苑、かつば寿司	6
7月17. 22. 23	買い物レク	マエダ問屋町	13
7月15. 17. 18	金魚ねぶた補修・制作	デイホール	42
7月30日	買い物レク (施設訪問型)	玄関ホール	11
8月8日	ねぶた囃子「青森中央学院大学ねぶた囃子方部」	三思園ホール	14
8月20日	デイ夏祭り	デイホール	12
8月9. 14. 16. 26	買い物レク	マエダ問屋町	12
8月21日	誕生日外出、外食	かつば寿司、イオン	2
8月28日	三思園夏祭り	三思園ホール	16
9月2. 3	誕生日外出、外食	焼肉いわや びくりドンキー	5
9月4. 5. 10. 21. 24. 25	買い物レク	マエダ問屋町	14
9月16日	ラインメール試合観戦応援	マエダアリーナ	4
9月21日	翔麗祭	青森中央学院大学 青森中央短期大学	9
9月24日	誕生日外出、外食	焼肉ハッピー	2
10月9. 10	誕生日外出、外食	かつば寿司 猫カフェ 壹野茶屋	3
10月15. 16. 17. 21	紅葉観覧	城ヶ倉大橋	28
10月30日	買い物レク	マエダ問屋町	4
11月5. 11. 13. 22. 27	買い物レク	マエダ問屋町	9
11月14日	デイ利用者100歳誕生日会	デイホール	14
11月21日	大正琴鑑賞	デイホール	13
11月28日	誕生日外出、外食	びくりドンキー	2
12月19. 25. 27	デイクリスマス会	デイホール	42
12月12日	合同クリスマス飾り	三思園外苑ホール	9
12月24日	クリスマス会「前田美樹・一明先生ピアノ演奏会」	デイホール	14
12月26日	餅つき会	デイホール	14
2月24日	ファッションショー	アウガ	3
3月3日	お茶会	デイホール	14
3月10日	アウガ市場外出	アウガ市場	3

1 基本方針・運営方針

- ①質の高いケアマネジメントの充実・向上
- ②介護支援専門員の専門性向上と人材育成
- ③地域連携
- ④効果的かつ安定した経営基盤の構築

2 中期的な計画と推進策

計画・課題	推進策	実施状況・今後の方針等
介護支援専門員の専門性向上と人材確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>①管理業務の充実、業務内容の平準化を図る。</li> <li>②育成状況に合わせた柔軟な業務体制を検討し、雇用の安定を図る。</li> <li>③人事評価を活用した職員育成。</li> <li>④個々の介護支援専門員のスキルアップを図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人材の定着、育成、意欲促進を安定して図ることができず、4名体制での事業実施が適わなかった。</li> <li>・管理者における管理業務及び介護支援専門員の標準件数（目標件数）を見直すことで、業務の平準化を図ると共に、個々の能力発揮を可能とする側面支援、チームケアの促進を推進する</li> </ul>
運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>①特定事業所加算算定の維持。</li> <li>②取得加算の維持</li> <li>③標準件数見直しに伴う対応、業務の効率化。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配置介護支援専門員数の変動により、特定事業所加算Ⅱ～Ⅲを推移している。</li> <li>・初回、退院連携、入院時情報連携、通院情報等、医療連携関係の加算は積極的に取得できた。</li> <li>・前年度と比して実績件数減少。要介護者の件数、前年度の平均104件。令和7年1月迄の平均95件と低下した。</li> <li>・現状の介護支援専門員3名体制における目標件数を設定し、件数の増加を図りつつ、4名での実施体制を目指す。令和7年度目標件数、平均100件。</li> </ul>

# 令和6年度 介護度別ケアプラン作成状況

令和7年3月31日現在

	介護給付 (人)						予防給付 (人)			介護予防 合計 (人)	目標 (人)	常勤 CM数 (人)
	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計	要支援1	要支援2	計			
R6 4月	20	31	22	12	13	98	3	3	6	104	105	4
5月	22	31	20	11	11	95	3	3	6	101	105	4
6月	21	31	21	11	10	94	3	4	7	101	105	4
7月	21	31	20	12	10	94	3	4	7	101	105	3
8月	25	29	20	11	13	98	4	4	8	106	105	3
9月	26	29	20	11	14	100	4	4	8	108	105	3
10月	25	29	19	10	12	95	4	4	8	103	105	3
11月	23	29	20	9	12	93	4	4	8	101	105	4
12月	22	29	20	10	11	92	4	4	8	100	105	3
R7 1月	20	29	20	10	11	90	4	4	8	98	105	3
2月	20	26	20	8	11	85	4	2	7	92	105	3
3月	18	27	18	9	12	84	4	4	8	92	105	3
合計	263	351	240	124	140	1118	44	44	89	1207		
平均 件数	22	30	20	10	12	93	4	4	7			

# 居宅介護支援利用実績比較表

令和7年3月31日現在

	R5年度			R6年度			R5年度		R6年度		前年度比
	利用者数（人）			利用者数（人）			事業所 加算 Ⅱ (407) Ⅲ (309)	収入	事業所 加算 Ⅱ (421) Ⅲ (323)	収入	
	介護	予防	合計	介護	予防	合計					
4月	103	9	112	98	6	104	Ⅲ	1,868,688	Ⅱ	1,827,380	-41,308
5月	104	8	112	95	6	101	Ⅲ	1,868,296	Ⅱ	1,774,948	-93,348
6月	103	8	111	94	7	101	Ⅲ	1,854,166	Ⅱ	1,794,366	-59,800
7月	103	8	111	94	7	101	Ⅲ	1,970,606	Ⅲ	1,646,760	-323,846
8月	108	7	115	98	8	106	Ⅱ	2,035,744	Ⅲ	1,772,144	-263,600
9月	103	8	111	100	8	108	Ⅱ	1,929,226	Ⅲ	1,784,624	-144,602
10月	103	7	110	95	8	103	Ⅱ	1,913,784	Ⅲ	1,676,824	-236,960
11月	109	7	116	93	8	101	Ⅱ	2,036,924	Ⅱ	1,922,264	-114,660
12月	108	7	115	92	8	100	Ⅱ	2,010,194	Ⅲ	1,634,904	-375,290
1月	105	7	112	90	8	98	Ⅱ	1,964,794	Ⅲ	1,626,964	-337,830
2月	103	7	110	85	7	92	Ⅱ	1,818,664	Ⅲ	1,524,406	-294,258
3月	104	7	111	84	8	92	Ⅱ	1,917,914	Ⅲ	1,521,164	-396,750
合計	1256	90	1346	1118	89	1207	/	23,189,000	/	20,506,748	-2,682,252

1 基本方針・運営方針

- ①利用者の人権を尊重し、良質かつ安全・安心なサービスを提供します。
- ②利用者主体に行動する良質な福祉人材を育成します
- ③社会的ルール、モラルを尊重し、公共的・公益的かつ信頼性を育むように努めます。
- ④地域における福祉システムの構築に主体的に関わります。

2 中期的な計画と推進策

計画・課題	推進策	実施状況・今後の方針等
専門性の高いケアの提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>①個別ケアの充実</li> <li>②尊厳を守る看取り介護の充実</li> <li>③個別に適した食事の提供</li> <li>④機能維持から看取り期までの多様なリハビリの実践</li> <li>⑤感染症予防・感染対策の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①本人の状態に応じた個別ケアを継続している。</li> <li>②適宜人生会議の開催、グリーンケアを行い、利用者本人の尊厳を守った看取り介護を実践。</li> <li>③利用者の状態、嗜好に応じて柔軟に対応している。</li> <li>④看取り介護時においても、ポジショニングを実践することができており、ご家族の協力により、マッサージ等の安心感を生むケアや機能訓練も実施できた。</li> <li>⑤感染が疑われる時は、多職種間での連携のもと、速やかに対応、感染拡大を防止している。</li> </ul>
地域福祉の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>①地域福祉・医療機関との連携向上</li> <li>②公益的な取り組み、地域住民との交流を通じての地域貢献</li> <li>③災害時における地域住民との協力・連携・定期的な訓練</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①本人・家族の希望がある際、必要時、協力医療機関等と連携を図っている。</li> <li>②2カ月に1度の運営推進会議に加え、地域活動に参加している。冬期間、園隣の町内のゴミ捨て場前の除雪を行うことで地域住民との交流が生じている。</li> <li>③町内で実施した防災訓練に参加。</li> </ul>
働きやすい職場環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>①仕事と育児・介護等が両立できる職場環境の整備</li> <li>②キャリアアップ・資格取得しやすい職場づくり</li> <li>③ICT・ロボット等先進機器の活用による業務の効率化</li> <li>④リスクマネジメントの実践による業務改善・環境整備</li> <li>⑤ノーリフティングケアの実践</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①看護休暇・有給休暇取得時、他職員と連携・協力できる体制を整備。</li> <li>②職員の適正・希望等を踏まえ、取得しやすい環境作りを行っている。</li> <li>③アプリのカレンダー機能の活用により情報共有、業務の効率化を図っている。</li> <li>④各会議にて、意見収集を行い、業務改善、環境整備に努めた。</li> <li>⑤令和6年度あおりノーリフティングケア推進事業において、モデル施設として総合マネジメント研修に参加。7年度以降はノーリフティングケア推進法人、及びノーリフティングケア推進リーダーとして活動予定。</li> </ul>
人材育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>①効果的な育成システムの構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①リーダー、サブリーダーを主体とした育成を実施。チューター制度の導入、事業所全体での育成体制の構築が必要。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>②人事評価を通じての適正な人事異動・適正配置</li> <li>③キャリアパスの充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>②人事評価を通じて、個々の資質・適性を見極め、ユニット配置・異動を実施。</li> <li>③段階的なキャリアパスの構築を図り、職員が目的意識を持てるよう育成手法を検討する</li> </ul>
安定した経営	<ul style="list-style-type: none"> <li>①各加算の維持・見直し</li> <li>②稼働率の維持・向上</li> <li>③コスト意識を高めた施設運営</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①各加算の維持、適宜見直しを行い、加算取得に必要な研修等があれば受講していく。</li> <li>②入居は稼働率 97%、短期入居は稼働率 85%と維持できなかった。入居・短期入居共に看取りでの退居が続き、入居予定者のキャンセル等もあり、調整が難しかった。</li> <li>③物価高騰、感染対策等の影響、設備等の修繕も重なり、必要経費が増大。法人本部との情報共有、コスト削減に努め、コスト意識をもって取り組んだ。</li> </ul>

# 令和 6年度 入居者の諸状況

令和7年3月31日現在

## (1) 入居・退居状況

月	入 居			退 居		
	男	女	計	男	女	計
4	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0	0
6	0	0	0	0	0	0
7	0	0	0	0	0	0
8	0	0	0	0	0	0
9	0	0	0	0	1	1
10	0	1	1	0	0	0
11	0	0	0	0	0	0
12	0	1	1	0	2	2
1	0	0	0	0	3	3
2	0	1	1	0	0	0
3	0	0	0	0	1	1
計	0	3	3	0	7	7

## (2) 退居理由状況

理由	長期入院		家族希望引き取り		死亡		他施設へ入所		計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
計(人)	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0
	0		0		7		0		0	

## (3) 入居前居住

居住場所	家族と同居		病院		老健・特養		有料・GH		ショート		計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
計(人)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3
	0		0		0		0		3		3	

## (4) 介護度認定状況 R6.3末時点

介護度	要介護3		要介護4		要介護5		計	
	男	女	男	女	男	女	男	女
計(人)	0	0	1	12	3	9	4	21
	0		13		12		25	

## (5) 年齢状況 R6.3末時点

年齢	男	女	計
65歳未満	0	0	0
65歳～69歳	0	0	0
70歳～79歳	0	1	1
80歳～89歳	2	12	14
90歳以上	2	8	10
合計	4	21	25

平均年齢			
男	90	歳	
女	88.5	歳	89.25 歳
	最高		最少
男	95	歳	84 歳
女	97	歳	78 歳

# 勝田三思園入居者比較表

令和7年3月31日現在

	入居可能者数		入居可能日数		利用実数 (日)		利用率 (%)		収入 ※食費・居住費・入居者負担含む		
	計		計		R5年度	R6年度	R5年度	R6年度	R5年度	R6年度	前年度比
	R5年度	R6年度	R5年度	R6年度							
4月	29	29	870	870	870	870	100	100	12,450,053	12,740,874	290,821
5月	29	29	899	899	890	899	98	100	13,169,365	13,244,664	75,299
6月	29	29	870	870	870	870	100	100	12,566,948	12,950,292	383,344
7月	29	29	899	899	899	899	100	100	12,989,931	13,354,302	364,371
8月	29	29	899	899	896	899	99	100	13,089,240	13,396,859	307,619
9月	29	29	870	870	865	855	99	98	12,497,031	12,739,345	242,314
10月	29	29	899	899	875	899	97	100	12,818,225	13,395,496	577,271
11月	29	29	870	870	870	870	100	100	12,563,358	13,067,593	504,235
12月	29	29	899	899	870	884	96	98	12,835,254	13,289,224	453,970
1月	29	29	899	899	899	830	100	92	13,004,714	12,576,993	-427,721
2月	29	29	841	841	841	714	100	84	12,147,002	10,780,822	-1,366,180
3月	29	29	899	899	896	805	99	89	13,017,849	12,083,451	-934,398
計	348	348	10,614	10,614	10,541	10,294			153,148,970	153,619,915	470,945
平均	29	29	884.5	884.5	878.42	857.83	99	96.8	12,762,414	12,801,660	39,245

# 令和 6年度 短期入所者の諸状況

令和7年3月31日現在

## (1) 利用者状況

(人)

	年間総利用者数		新規利用者		契約解除者					
	男	女	男	女	本園入所		他施設入所等		死去	
性別	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
計	520	2599	6	7	0	2	0	0	4	2
	3119		13		2		0		6	

## (2) 新規利用者加入状況

(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	3	1	6
女	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	2	0	7
計	1	2	1	2	1	0	0	0	0	0	5	1	13

## (3) 年間介護度別 利用日数

(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
要介護1	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	2	7
要介護2	0	4	2	1	3	10	9	8	11	12	12	6	78
要介護3	70	41	41	38	36	35	40	33	31	38	39	38	480
要介護4	140	161	158	181	164	130	141	144	141	125	145	158	1788
要介護5	81	92	88	77	91	121	93	65	47	3	6	0	764
計	291	298	294	299	294	296	283	250	230	178	202	204	3119

	平均年齢	
男	91.52	89.7
女	89.04	

(歳)

	最高年齢	最低年齢
男	98	83
女	97	73

# 勝田三思園短期入所利用者比較表

令和7年3月31日現在

	利用者数		利用日数 (日)				利用率 (%)		収入 ※食費・居住費・利用者負担含む		
			利用可能数		利用実数				R5年度	R6年度	前年度比
	R5年度	R6年度	R5年度	R6年度	R5年度	R6年度					
4月	18	14	300	300	274	291	91	97	3,882,803	4,090,332	207,529
5月	19	16	310	310	295	298	95	96	4,017,446	3,824,388	-193,058
6月	20	16	300	300	271	294	90	98	3,857,906	4,762,863	904,957
7月	19	16	310	310	300	299	96	96	4,249,349	4,301,419	52,070
8月	18	16	310	310	290	294	93	94	4,075,006	4,255,769	180,763
9月	20	16	300	300	297	296	99	98	4,151,571	4,299,029	147,458
10月	21	14	310	310	303	283	97	91	4,343,882	4,066,370	-277,512
11月	19	13	300	300	295	250	98	83	4,191,668	3,596,640	-595,028
12月	17	12	310	310	303	230	97	74	4,279,262	3,277,771	-1,001,491
1月	18	11	310	310	306	178	98	57	4,272,859	2,490,479	-1,782,380
2月	16	15	290	290	289	203	99	70	4,012,074	2,715,132	-1,296,942
3月	13	11	310	310	307	204	99	65	4,403,965	2,873,941	-1,530,024
計	218	170	3,660	3,660	3,530	3,120			49,737,791	44,554,133	-5,183,658
平均	18.2	14.2	305	305	289	260	96.0	84.9	4,144,816	3,712,844	-431,972

# 令和6年度 看護

令和7年3月31日現在

## (1) 職員健康診断結果の概況

		A異常なし	B、C要指導	D要医療	E治療継続	合計
第1回	4/15～5/10	6人	8人	4人	9人	27人
第2回	10/21～11/1	2人	7人	1人	3人	13人

※夜勤をする者は年2回の健康診断が必要である。

## (2) 職員の腰痛発症状況

5月	全職員	腰に負担のかかる業務に従事する職員
腰痛あり	21人	13人
腰痛なし	12人	8人
合計	33人	21人

10月	全職員	腰に負担のかかる業務に従事する職員
腰痛あり	21人	14人
腰痛なし	12人	7人
合計	33人	21人

## (3) 感染症発症状況 (ショート含む)

	職員	入所者	合計
新型コロナウイルス	8人	3人	11人
新型コロナウイルス濃厚接触者	4人	15人	19人
インフルエンザウイルスA、B	3人	0人	3人
インフルエンザウイルス濃厚接触者	4人	0人	4人
ノロウイルス	0人	0人	0人
疥 癬	0人	0人	0人
結 核	0人	0人	0人

## (4) 入居者の褥瘡発症状況

	4月～6月		7月～9月		10月～12月		1月～3月	
	発症	治癒	発症	治癒	発症	治癒	発症	治癒
人数	4人	3人	3人	3人	2人	0人	1人	1人
率	15.6%		11.7%		7.4%		3.4%	

## (5) 入居者の入退院状況

	男	女	合計
青森県立中央病院	0人	0人	0人
青森市民病院	1人	0人	1人
あおもり協立病院	0人	1人	1人
青森新都市病院	0人	0人	0人
青森腎研究所鷹揚郷病院	0人	0人	0人
小 計	1人	1人	2人

## (6) 死亡状況 (ショートロング4名含む)

	男	女	合計
病院で逝去された	1人	1人	2人
看取りを実施された	2人	8人	10人

	午前	午後	夜間、早朝	深夜	合計
看取り死亡時間帯	1人	3人	4人	2人	10人

午前=8:30～11:59 午後=12:00～17:59 夜間=18:00～21:59

早朝=5:00～8:29 深夜=22:00～4:59

## (7) 青森中央学院大学看護学部 実習生受け入れ

老年看護学実習	期間	合計
1クール	9/18～9/27	4人
2クール	10/1～10/10	4人
3クール	10/16～10/25	4人
4クール	10/29～11/8	5人
5クール	11/12～11/21	5人
合計		22人

基礎看護学実習	1G	2G	3G	4G	合計
7月22日	9人 (AM)	9人 (PM)			18人
7月23日			9人 (AM)	8人 (PM)	17人
7月24日	9人 (AM)	9人 (PM)			18人
7月25日			9人 (AM)	8人 (PM)	17人
合計					70人

月	栄養リスク評価			補助食品 提供人数
	低リスク	中リスク (内経管栄養)	高リスク	
4月	20人	8人 (2人)	1人	14人
5月	19人	8人 (2人)	2人	14人
6月	23人	5人 (2人)	1人	15人
7月	22人	6人 (2人)	1人	17人
8月	20人	9人 (2人)	0人	17人
9月	19人	8人 (2人)	1人	16人
10月	18人	11人 (3人)	0人	16人
11月	19人	9人 (3人)	1人	16人
12月	19人	8人 (3人)	2人	15人
1月	18人	7人 (3人)	2人	14人
2月	18人	6人 (3人)	2人	12人
3月	17人	7人 (3人)	2人	12人

※経管栄養者は体重減少等がなくても中リスク判定となる

※補助食品は飲料(エンシュア・エンシュアH・ラコール)・ゼリー(メイバランスブリックゼリー)の提供者

食事形態状況

形態	主食			副食				経管栄養	
	ご飯	全粥	ミキサー粥	常食	一口大	粗刻み	ソフト食		ミキサー
人数	6	11	6	6	3	0	9	5	3

令和6年度 行事食実施状況

実施日	行事食(献立)	実施日	行事食(献立)
4/4	お楽しみ献立(オムライス)	10/1	創立記念弁当(赤飯・天ぷら)
4/8	手作りおやつ(桜もち風)	10/4	手作りおやつ(焼きりんご)
4/15	麺メニュー(カレーうどん)	10/11	麺メニュー(醤油ラーメン)
4/25	お花見弁当(桜ごはん)	10/25	お楽しみ献立(きのこご飯)
4/30	パンメニュー(クラムチャウダー)	10/31	パンメニュー(さつま芋のシチュー)
5/3	端午の節句(2色いなり寿司)	11/1	麺メニュー(肉そば)
5/10	麺メニュー(月見たぬきそば)	11/8	お楽しみ献立(さつま芋ご飯)
5/17	お楽しみ献立(桜エビと枝豆の炊き込みご飯)	11/18	手作りおやつ(かぼちゃ餅)
5/30	パンメニュー(トマト煮込みハンバーグ)	11/25	プレートランチ(ミートソースご飯)
6/4	手作りおやつ(蒸しパン)	12/5	パンメニュー(サンドイッチ)
6/10	お楽しみ献立(冷やし中華)	12/20	クリスマスメニュー(ミートローフ)
6/18	プレートランチ(カオマンガイ風)	12/25	クリスマスおやつ(ケーキ)
6/28	パンメニュー(鶏肉のクリーム煮)	12/27	幕の内弁当(赤魚の白醤油焼き)
7/5	麺メニュー(豚しゃぶと揚げ野菜のそうめん)	12/31	年越しそば
7/16	お楽しみ献立(ラトウイユご飯)	1/1	正月メニュー(赤飯・八幡巻き)
7/24	土用の丑の日(うな重)	1/7	七草粥(七草粥・タラ鍋風)
7/29	パンメニュー(ローストチキン)	1/17	麺メニュー(かき玉生姜そうめん)
8/5	麺メニュー(冷やしとろろそば)	1/23	パンメニュー(ロールキャベツのトマト煮)
8/14	精進お膳(赤飯・精進揚げ)	2/3	節分(五目巻き寿司)
8/19	お楽しみ献立(枝豆とツナの炊き込みご飯)	2/14	手作りおやつ(焼バナナチョコソースかけ)
8/29	パンメニュー(かぼちゃコロッケ)	2/18	麺メニュー(味噌ラーメン)
9/4	麺メニュー(ナポリタン風うどん)	2/25	お楽しみ献立(豆ごはん)
9/9	お楽しみ献立(栗ごはん)	3/3	ひな祭り(ちらし寿司)
9/13	敬老会(かにちらし寿司)	3/11	麺メニュー(けんちんうどん)
9/19	秋彼岸法要会(おはぎ・煮しめ)	3/18	パンメニュー(スクランブルエッグ)
9/27	手作りおやつ(フレンチトースト)	3/21	春彼岸法要会(ぼたもち・煮しめ)

# 令和6年度 機能訓練実施状況

令和7年3月31日現在

(1)機能訓練			(2)ベッド上機能訓練			(3)集団体操			(4)生活リハビリ		
月	実施日数	参加人数	月	実施日数	参加人数	月	実施日数	参加人数	月	実施日数	実施回数
4月	19	81	4月	13	35	4月	18	337	4月	25	76
5月	19	85	5月	13	34	5月	18	312	5月	25	91
6月	14	55	6月	7	16	6月	15	241	6月	27	81
7月	18	60	7月	12	23	7月	15	274	7月	27	86
8月	19	62	8月	8	30	8月	15	215	8月	11	16
9月	17	56	9月	8	19	9月	16	212	9月	20	29
10月	19	66	10月	9	19	10月	18	292	10月	21	49
11月	18	56	11月	9	19	11月	13	198	11月	16	45
12月	19	61	12月	7	24	12月	17	219	12月	23	63
1月	15	54	1月	12	32	1月	11	111	1月	23	54
2月	17	63	2月	8	26	2月	15	216	2月	19	36
3月	18	67	3月	7	18	3月	19	256	3月	25	44
計	212	766	計	113	295	計	190	2,883	計	262	670

- (1) 機能訓練は機能訓練室やホール、居室などにおいて、体操や座位バランス訓練、マッサージや関節可動域訓練、上田法療法、訓練用平行棒や手すりを使用しての立ち上がり、立位保持、歩行訓練、訓練用階段を使用しての階段昇降訓練などを行っています。また、ホットパック、フットポンプを使用した物理療法、レクリエーションを通したレク療法も行っています。
- (2) ベッド上機能訓練は、ベッドにてマッサージや関節可動域訓練、上田法治療、寝返りや起き上がりといった基本動作訓練を行っています。
- (3) 集団体操は各ユニットで実施しています。時間は15分程度、全身の関節運動や筋力増強運動、ストレッチ、連続した足踏みによる有酸素運動、座位バランス運動を組み合わせで行っています。
- (4) 生活リハビリは日常生活全般をリハビリと捉え、自立を目的としています。移動や移乗・食事・排泄・入浴の際の日常生活動作訓練、おしぼりやエプロンたたみといった軽作業療法、食事前の口腔体操、ベッド臥床時の除圧・体位変換・ポジショニングや車椅子座位でのシーティングなど、日常生活の一部としてリハビリを取り入れています。

# 令和6年度 園外研修・外部発信

令和7年3月31日現在

日付	参加者	内容
2024/5/16	八戸祐人	「院内におけるACPの進め方」
	吉川真菜	
2024/5/20	白鳥周子	令和6年度公益社団法人青森県老人福祉協会 第1回総会
2024/5/20	白鳥周子	社会福祉法人向けセミナー「生産性向上と人材確保について」
	八戸祐人	
2024/5/21	松山倭子	介護職員の口腔ケアに対する知識・技術の習得について
2024/5/30、31	白鳥周子	令和6年度あおもりノーリフティングケア推進事業 総合マネジメント研修①②
	八戸祐人	
	吉川真菜	
	齋藤江利子	
	木村光	
2024/6/27	白鳥周子	令和6年度あおもりノーリフティングケア推進事業 総合マネジメント研修③
	吉川真菜	
	小山内美沙	
	木村光	
2024/7/2	福士未優	令和6年度青森県喀痰吸引等研修（第一号、第二号研修）基本研修（講義）
2024/7/4～19	野土谷健太郎	令和6年度青森県喀痰吸引等研修（第一号、第二号研修）基本研修（講義）
2024/7/18	吉川真菜	令和6年度あおもりノーリフティングケア推進事業 総合マネジメント研修④
	齋藤江利子	
	柿崎鮎美	
	木村光	
2024/7/20、21	福士未優	令和6年度青森県喀痰吸引等研修（第一号、第二号研修）基本研修（演習）
2024/8/10、11	野土谷健太郎	令和6年度青森県喀痰吸引等研修（第一号、第二号研修）基本研修（演習）
2024/8/29	福士未優	令和6年度青森県喀痰吸引等研修 半固形化栄養剤使用による経管栄養追加演習
2024/8/30	野土谷健太郎	令和6年度青森県喀痰吸引等研修 半固形化栄養剤使用による経管栄養追加演習
2024/9/24～9/27	小山内美沙	ユニットリーダー研修 実地研修
2024/10/16	八戸祐人	令和6年度あおもりノーリフティングケア推進事業 総合マネジメント研修⑤
	吉川真菜	
	木村光	
2024/10/18	吉川真菜	介護職員の口腔ケアに対する知識・技術の習得について

# 令和6年度 園外研修・外部発信

令和7年3月31日現在

日付	参加者	内容
2024/10/19	八戸祐人	令和6年度本人の意向を尊重した意思決定のための研修会 相談員研修会
	齋藤江利子	
2024/11/1	柴田絢菜	認知症介護基礎研修
2024/11/2	福士未優	令和6年度青森県福祉・介護人材確保対策事業 弘前医療福祉大学短期大学部企画 見て×触れて×気づく介護フェスタ MC×若手介護福祉士×介護福祉学生 トークセッション
2024/11/11、12	八戸祐人	令和6年度あおもりノーリフティングケア推進事業 総合マネジメント研修⑥⑦
	吉川真菜	
	木村光	
2024/11/26	白鳥周子	令和6年度第1回研修委員会
2024/12/11、12	吉川真菜	令和6年度あおもりノーリフティングケア研修～リーダー編～
	木村光	
2024/12/13	三上寛平	アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の理解 ～どせばいいカードで人生会議の疑似体験をしてみよう～ （浪岡）
2024/12/20	三上寛平	アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の理解 ～どせばいいカードで人生会議の疑似体験をしてみよう～ （三戸町）
2024/12/20	白鳥周子	令和6年度公益社団法人青森県老人福祉協会第2回理事会
2025/1/23	三上寛平	アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の理解 ～どせばいいカードで人生会議の疑似体験をしてみよう～ （東北町）
2025/1/24	八戸祐人	青東地区老人福祉協会 令和6年度第1回生活相談員会議
	三上寛平	
2025/1/30	澁谷那奈	認知症介護基礎研修
2025/2/2	河原幸侑	認知症介護基礎研修
2025/2/14	白鳥周子	令和6年度公益社団法人青森県老人福祉協会第2回理事会
2025/2/19	白鳥周子	令和6年度あおもりノーリフティングケア推進事業 あおもりノーリフティングケアフォーラム
	吉川真菜	
	三上寛平	
	木村光	
2025/2/21	白鳥周子	青東地区老人福祉協会 令和6年度第2回通常総会
	三上寛平	
2025/2/25～28	吉川真菜	ユニットリーダー研修 実地研修
2025/3/6	八戸祐人	アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の理解 ～どせばいいカードで人生会議の疑似体験をしてみよう～ （藤崎町）
2025/3/17	白鳥周子	令和6年度公益社団法人青森県老人福祉協会 第2回総会 社会福祉法人向けセミナー

令和6年度  
幼保連携型認定こども園 中央文化保育園 概要

- (1) 設置者 社会福祉法人 中央福祉会  
 (2) 施設の種別 幼保連携型認定こども園  
 (3) 施設の名称 中央文化保育園  
 (4) 所在地 青森市幸畑一丁目27-1  
 (5) TEL・FAX 017-738-5161  
 (6) ホームページ <https://www.chuobunka.site>  
 (7) 開設 平成27年4月1日  
 (8) 園長 蝦名 久美子  
 (9) 主幹保育教諭 本山 美保子  
 (10) 利用定員 80人

利用定員 (年齢別)		0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
	1号定員	—	—	—	3人	3人	4人	10人
	2号定員	—	—	—	12人	13人	14人	39人
	3号定員	9人	10人	12人	—	—	—	31人

(11) 職員体制

職種	員数	職務の内容
園長	1人	施設の管理に関すること及び職員の監督を行う。
主幹保育教諭	1人	園務の整理、職員の統括及び子育て支援を行う。
指導保育教諭	2人	園児の教育及び保育と、職員への指導及び助言を行う。
保育教諭	7人以上	園児の教育及び保育の計画立案、実施、記録及び家庭連絡等の業務を行う。
栄養士	1人	園児の栄養管理と、献立作成を行う。
調理員	1人	献立に基づき、給食及びおやつを調理する。
用務員	1人	送迎バス運転と園舎及び園庭の整備及び管理を行う。

(12) 教育・保育を提供する曜日・時間・休園等

開園している時間： 7時00分～19時00分

【1号認定子ども（教育標準時間認定）】

曜 日	月曜日～金曜日
時 間	9時00分～13時00分
休 園 日	土曜・日曜・祝日及び年末年始（12月29日～1月3日）
	<夏休み> 7月中旬から8月中旬まで（4週間）
	<冬休み> 12月下旬から1月中旬まで（3週間）
	<春休み> 3月下旬から4月上旬まで（2週間）
<その他>	土日行事の振替休日

【2号認定子ども・3号認定子ども（保育認定）】

曜 日	月曜日～土曜日
時 間	【保育標準時間認定を受けた方】 7時00分～18時00分（11時間）
	【保育短時間認定を受けた方】 8時00分～16時00分（8時間）
休 園 日	日曜・祝日及び年末年始（12月29日～1月3日）

(13) 特別保育事業

・延長保育促進事業

【2号認定子ども・3号認定子ども】

保育標準時間認定 18:00～19:00

保育短時間認定 16:00～19:00

・一時預かり事業（幼稚園型）

【1号認定子ども】

教育標準時間認定 13:00～19:00

夏休み・冬休み・春休み 7:00～19:00

・保育所地域活動事業

【世代間交流等事業】

年4回実施

## 令和6年度 入園児童数

区 分		入 園 児 童 数						
		0 歳児	1 歳児	2(満3) 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
定員	1号			0	3	3	4	10
	2・3号	9	10	12	12	13	14	70
4月	1号			0	0	0	0	0
	2・3号	4	15	8	11	18	10	66
5月	1号			0	0	0	0	0
	2・3号	5	15	8	11	18	10	67
6月	1号			1	0	0	0	1
	2・3号	5	14	8	11	18	10	66
7月	1号			1	0	0	0	1
	2・3号	5	14	8	11	18	10	66
8月	1号			1	0	0	0	1
	2・3号	5	14	8	11	18	10	66
9月	1号			1	0	0	0	1
	2・3号	6	14	8	11	18	10	67
10月	1号			0	0	0	0	0
	2・3号	7	14	9	11	18	10	69
11月	1号			0	0	0	0	0
	2・3号	7	14	9	11	18	10	69
12月	1号			0	0	0	0	0
	2・3号	8	14	9	11	18	10	70
1月	1号			0	0	0	0	0
	2・3号	8	14	9	11	18	10	70
2月	1号			0	0	0	0	0
	2・3号	8	13	9	11	18	10	69
3月	1号			0	0	0	0	0
	2・3号	9	13	9	11	18	10	70



## サービス内容に関する苦情相談

- ・オープンな施設づくり
- ・苦情は宝、言ってくれてありがとう
- ・契約利用者と事業者は対等

### 社会福祉法人（抜粋）

（社会福祉法人事業の経営者による苦情の解決）

第82条 社会福祉事業の経営者は、常に、その提供するサービスについて、利用者からの苦情の適切な解決に努めなければならない。

（運営適正化委員会）

第83条 都道府県の区域内において、福祉サービス利用援助事業の適正な運営を確保するとともに、福祉サービスに関する利用者等からの苦情を適切に解決するため、都道府県社会福祉協議会に、人格が高潔であって、社会福祉に関する意見を有し、かつ、社会福祉、法律又は医療に関し学識経験を有する者で構成される運営適正化委員を置くものとする。

### 当保育園へのお客様相談

担当者	主幹保育教諭	本山 美保子
受付	月曜日～金曜日	8:00～17:00
連絡先	TEL・FAX	017-738-5161

- |         |        |        |
|---------|--------|--------|
| ① 相談担当者 | 主幹保育教諭 | 本山 美保子 |
| ② 相談責任者 | 園長     | 蝦名 久美子 |
| ③ 第三者委員 |        | 須藤 兼四郎 |
|         | 〃      | 高橋 晴美  |

### その他の相談窓口

青森市役所子育て支援課	TEL	017-734-5330
福祉サービス相談センター	TEL	017-731-3039
中央児童相談所	TEL	017-781-9744

### 苦情委員会報告について

令和6年度の苦情・相談は1件。令和7年度も多くの保護者の意見に耳を傾け、更なる福祉の向上に努めます。

令和6年度 ご意見等苦情受付

No.	受付 年月日	意見等 申出者	意見等苦情内容	対応	
				検討日	内容
1	7/11	5歳児 保護者	園での水遊びの際、水着がなかったので、シャツとパンツで遊んだが、性教育の面からもやめてほしい。	7/11	配慮が足りなかったことを謝罪し、今後は衣服が濡れるような水遊びの際は、水着を着用することをお話した。 今までトラブルなどはなかったものの、今後は性教育に関する社会状況や保護者からの要望が増える可能性などふまえ、水遊び保育を含めた着替えなどは男女別にしていくこととした。

## 令和6年度避難訓練実施報告

実施	災害内容	参加園児数	欠席数	訓練の種別
4月17日(水)	給食室より 出火	61	5	1. 消火訓練(模擬) 2. 通報訓練(模擬) 3. 避難訓練
5月14日(火)	園舎北側民家より 出火	63	4	1. 消火訓練(模擬) 2. 通報訓練(模擬) 3. 避難訓練 4. 総合訓練
6月12日(水)	地震(震度2)	66	1	1. 消火訓練(模擬) 2. 通報訓練(模擬) 3. 避難訓練
6月26日(水)	不審者侵入	65	2	不審者避難訓練
7月17日(水)	園舎西側民家より 出火	50	17	1. 消火訓練(模擬) 2. 通報訓練(模擬) 3. 避難訓練
8月21日(水)	地震(震度3)	64	3	1. 消火訓練(模擬) 2. 通報訓練(模擬) 3. 避難訓練
9月18日(水)	園舎東側民家より 出火	64	4	1. 消火訓練(模擬) 2. 通報訓練(模擬) 3. 避難訓練 4. 総合訓練
9月25日(水)	地震(震度5)	63	5	非常災害訓練
10月2日(水)	不審者侵入	66	3	不審者避難訓練
10月16日(水)	給食室より 出火不審者侵入	68	1	1. 消火訓練(模擬) 2. 通報訓練(模擬) 3. 避難訓練
11月13日(水)	地震(震度3)	64	5	1. 消火訓練(模擬) 2. 通報訓練(模擬) 3. 避難訓練
12月18日(水)	園舎北側民家より 出火	61	9	1. 消火訓練(模擬) 2. 通報訓練(模擬) 3. 避難訓練
1月22日(水)	園舎西側民家より 出火	61	9	1. 消火訓練(模擬) 2. 通報訓練(模擬) 3. 避難訓練
2月21日(金)	地震(震度2)	65	4	1. 消火訓練(模擬) 2. 通報訓練(模擬) 3. 避難訓練
3月19日(水)	給食室より出火	61	9	1. 消火訓練(模擬) 2. 通報訓練(模擬) 3. 避難訓練

## “ 個人評価 ” の視点から

### (1) 個人・クラス運営の評価

- 子ども達が経験することでやってみてどうだったかの気持ちを大切にしながら前向きな姿勢が増えていった良かった。
- 保育教諭同士、協力することでチームワークよく、クラス運営することができた。
- 複数担任としてのコミュニケーションの取り方がうまくいかない時があった。物事の進め方に相違が生じた時もあり、もっと自分の意見をきちんと相手に伝え、より密な打ち合わせをするべきだった。
- クラス全体としても個々の関りとしてもその場面に最適な活動、対応ができなかった。不意の出来事にうまく対応できないことが多かったので、カリキュラムに基づき目標を明確にし、共通の意識を持って活動・生活の取り組みを進めていけるようにする。
- 遊びのマナー化がみられるので、いろいろな経験ができるような遊びの提供をしていきたい。
- 子どもの主体性や不適切な保育についてもっとよく考えていきたい。
- もっと幅広い視野で各担任とも関わってスムーズにクラス運営できるようにしたい。
- お部屋での活動が多く、子どもの発達に合わせた遊びの工夫が足りなかった。

### (2) 園全体の評価

- 行事ごとに話しあいを行い、共通理解できたことによって円滑に進めることができた。また、地域の行事にも参加することができ、地元への関りが例年に比べ増えたと思う。
- 日ごろからコミュニケーションをとることで保育の事など情報共有を行う。また、ワークスでいち早い情報共有ができるので、他クラスの出来事にも対応することができ、とても良い。
- 基本的な思いやりや、話し方などをひとり一人がもう一度考えてより良い園にしていきたいと思う。
- 行事ごとの製作物の分担などもっと進んで取り組むようにしたい。
- 異年齢児との交流する機会が少なかったため、他クラスの予定も配慮しつつ、遊ぶ機会もあれば良いと思う。

### (3) 食育・食事の提供について

- 衛生面の徹底を今後も維持していきたい。
- 身長・体重から判定した肥満度を毎月報告して全職員で情報共有し、給食指導の意識を高めていきたい。
- 家庭調査や聞き取りでわかる苦手な食べ物・食の進み方を把握して献立作成し、提供の仕方に活かしたい。

## 令和6年度研修会

	研修会名	対象	開催日	場所	参加者	実施機関
1	幼保小推進協議会	園長	4/30	ホテル青森	蝦名	市教育委員会
2	安全衛生推進者養成講習	担当者	5/29. 30	青森総合流通団地協同会館	蝦名	労働基準協会
3	幼児の教育の理解発展推進事業青森県研究協議会	保育教諭	8/20	青森県総合 学校教育センター	佐藤	文部科学省 県教育委員会
4	主任・主幹保育者研修会	保育教諭	8/28	ZOOM	本山	県保育連合会
5	教育・保育施設職員研修会	保育教諭	9/11	青森福祉増進センター	澤口	市子育て支援課
6	教育・保育施設職員研修会	給食管理者	9/25	青森福祉増進センター	奈良	市子育て支援課
7	特定給食施設等研修会	保育教諭	9/25	元気プラザ	工藤七瀬	市保健所
8	ミドルリーダー研修会	保育教諭	10/25	ホテル青森	佐藤	県保育連合会
9	キャリアアップ研修	保育教諭	12/5. 6	ZOOM	奈良	県保育連合会
10	防災教育研修会	保育教諭	12/11	浦町保育園	本山・猿舘	県子ども家庭部
11	幼保小連携に係る研修講座	担当者	12/12	青森県総合 社会教育センター	蝦名	市教育委員会
12	保育施設職員研修会	保育教諭	1/9	青森市総合 社会教育センター	本山	市子育て支援課
13	キャリアアップ研修会	保育教諭	1/29. 30	ZOOM	工藤なな	県保育連合会
14	キャリアアップ研修会	保育教諭	2/4. 5	ZOOM	玉田	県保育連合会
15	施設長研修会	施設長	2/10	ホテル青森	蝦名	市保育連合会
16	キャリアアップ研修会	保育教諭	2/19. 20	ZOOM	玉田	県保育連合会

令和6年度  
幼保連携型認定こども園 浦町保育園 概要

- (1) 設置者 社会福祉法人 中央福社会  
 (2) 施設の種別 幼保連携型認定こども園  
 (3) 施設の名称 浦町保育園  
 (4) 所在地 青森市中央三丁目21-4  
 (5) TEL・FAX 017-734-7749  
 (6) ホームページ <https://uramachi.site>  
 (7) 開設 平成27年4月1日  
 (8) 園長 町田 美智子  
 (9) 主幹保育教諭 羽賀 梢  
 (10) 利用定員 166名

		0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
利用定員 (年齢別)	1号 定員	—	—	—	2人	2人	2人	6人
	2号 定員	—	—	—	33人	33人	34人	100人
	3号 定員	20人	20人	20人	—	—	—	60人

(11) 職員体制

職種	員数	職務の内容
園長	1人	施設の管理に関すること及び職員の監督を行う。
主幹保育教諭	1人	園務の整理、職員の統括および子育て支援を行う。
指導保育教諭	2人	園児の教育及び保育と、職員への指導及び助言を行う。
保育教諭	22人	園児の教育及び保育の計画立案、実施、記録および家庭連絡などの業務を行う。
看護師	1人	園児の健康管理を行う。
栄養士	2人	園児の栄養管理と、献立作成を行う。
調理員	2人	献立に基づき、給食及びおやつを調理する。
用務員	1人	園舎及び堰堤の整備及び管理を行う。

## (12) 教育・保育を提供する曜日・時間・休園等

開園している時間： 7時00分～20時00分

休日保育利用時間： 8時30分～17時

## 【1号認定子ども（教育標準時間認定）】

曜 日	月曜日～金曜日
時 間	9時00分～13時00分
休 園 日	土曜・日曜・祝日及び年末年始（12月29日～1月3日）
	〈夏休み〉 7月中旬から8月下旬まで（4週間）
	〈冬休み〉 12月下旬から1月中旬まで（4週間）
	〈春休み〉 3月下旬から4月上旬まで（2週間）
	〈その他〉 土日行事の振替休日

## 【2号認定子ども・3号認定こども（保育認定）】

曜 日	月曜日～土曜日
時 間	【保育標準時間認定を受けた方】 7時00分～18時00分（11時間）
	【保育短時間認定を受けた方】 8時00分～16時00分（8時間）
休 園 日	日曜・祝日及び年末年始（12月29日～1月3日）

## (13) 特別保育事業

障がい児保育事業	中程度の障がいのある児童 ・特別児童扶養手当の支給対象となる児童 ・2人につき1人の保育教諭が必要
ふれあい保育事業	軽度の障がいのある児童 3人につき1人の保育教諭が必要
障がい児保育円滑事業	「障がい児保育事業」及び「ふれあい保育事業」に該当する障がい児4人以上受入、環境整備を図る
延長保育促進事業（短時間）	2号認定・3号認定 16時～18時
延長保育促進事業（標準時間）	2号認定・3号認定 18時～20時
一時預かり事業（一般型）	月曜日～金曜日 8時30分～17時
一時預かり事業（幼稚園型）	1号認定
	教育標準時間認定 13時～18時 土曜日・夏休み・冬休み・春休み 8時～16時
保育所地域活動事業	世代間交流事業

## 令和6年度 入所児童数

区 分		入 所 児 童 数						
		0歳児	1歳児	2歳児	満3歳児	3歳児	4歳児	5歳児
4月	155	7	22	27	0	27	37 1(1号)	34
5月	155	7	23	27	0	26	37 1(1号)	34
6月	154	8	24	26	0	26	35 1(1号)	34
7月	160	13	24	27	0	26	34 2(1号)	34
8月	162	15	24	27	0	26	34 2(1号)	34
9月	164	17	24	27	0	26	34 2(1号)	34
10月	166	19	24	27	0	26	34 2(1号)	34
11月	166	19	24	27	0	26	34 2(1号)	34
12月	168	19	24	29	0	26	35 1(1号)	34
1月	168	19	24	29	0	26	35 1(1号)	34
2月	168	19	24	29	0	26	35 1(1号)	34
3月	168	19	24	29	0	26	35 1(1号)	34

## 令和6年度特別保育事業実績状況

### 令和6年度 延長保育促進事業実績状況（1ヶ月の利用日数）

保育標準時間	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
30分延長	57	64	82	70	49	77	96	83	90	98	87	105	958
1時間延長	111	119	104	135	113	121	162	155	180	171	196	216	1,783
2時間延長	8	12	10	17	9	14	23	22	24	30	32	24	225
保育短時間	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1時間延長	10	4	3	5	4	0	5	4	21	19	3	3	81
2時間延長	4	4	2	7	0	1	1	0	0	0	0	1	20

### 令和6年度 一時預かり保育事業実績状況（幼稚園型）

基本分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延べ利用児童数	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
長期休業日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
8時間未満延べ利用児童	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8時間以上延べ利用児童	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

### 令和6年度 休日保育実績状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
休日保育利用	11	12	13	10	12	20	8	16	12	6	5	8	133

### 令和6年度 保育所地域活動事業

世代間交流事業	
5月9日（木）    6月25日（火）    10月1日（火）    12月4日（水）	

## 苦情相談体制

1 利用者又はその家族からの相談又は苦情に対応する常設の窓口・電話番号・担当

### (1) 当園の窓口

担当者	主幹保育教諭	羽賀 梢
相談責任者	園 長	町田 美智子
連絡先	TEL・FAX	017-734-7749

### (2) その他窓口

青森市役所	TEL: 017-734-5330
中央児童相談所	TEL: 017-781-9744

円滑かつ迅速に苦情を解決するための処理体制・手順

家族等からの苦情の申し出



苦情処理窓口における対応

(担当者 羽賀 梢)



問題点、事実関係の確認

相談責任者への報告・対策

(相談責任者 町田 美智子)



対応策の検討

事故・怪我は医療機関と連携

損害賠償の検討

改善への取り組み・苦情者への説明



改善策の提示、解決の確認

相談責任者への報告

再発防止に向けての取り組み

令和6年度 ご意見書等苦情受付（浦町保育園）

No.	受付年月日	意見等申入れ者	意見等苦情内容	対応内容
1	4月	2歳児女児保護者	・LK（アプリ）に毎日配信してくれるのはありがたいが、我が子の変顔している写真が多く、他の保護者が見ていると思うと嫌だ。	・カメラを向けると変顔をしてしまうおちゃらけが好きな子だが、そのような顔の写真が多かったため、今後気を付けることとお話し、謝罪をした。
2	9月	4歳児女児保護者	・金曜日に明日の土曜日お休みをするかどうか子どもに聞かないでほしい。土曜日仕事なので、登園する予定だが、聞かれることによって、休みたいと言い始める。	・子ども同士で話していたり、その流れで先生も話していることもあるので、本児にはなるべくそのようなことは聞いたり、話したりしないようにする。
3	2月	4歳児男児保護者	・友達とのトラブルがあるが、納得せずに帰ってきている。詳しく聞きたい。	・園での出来事は、なるべく早いうちに保護者に知らせているが、ささいなことも大きなことにして園児が保護者に伝えるので、しっかりと説明する。子どもとじっくりと話をし、納得して帰宅できるようにしていきたい。

## 令和6年度 避難訓練実施報告

実施日時	想定火点	参加園児数	欠席数	訓練の種別
R6年4月25日(木) 10:00~10:30	給食室	142名	13名	避難訓練
R6年5月23日(木) 9:55~10:20	園舎北側民家	140名	15名	避難訓練
R6年6月20日(木) 10:15~10:30	地震(震度2)	137名	17名	避難訓練
R6年6月25日(火) 10:30~10:50	不審者対応訓練	144名	10名	避難訓練
R6年7月16日(火) 10:00~10:20	園舎西側民家	145名	15名	避難訓練
R6年8月27日(火) 10:20~10:50	地震(震度3) 津波対応訓練	143名	19名	避難訓練 消火訓練
R6年9月18日(水) 10:30~10:50	園舎西側民家	150名	14名	消火訓練(実技) 総合訓練 通報訓練(実技) 避難訓練
R6年10月16日(水) 10:10~10:30	給食室	150名	16名	避難訓練
R6年11月12日(火) 9:50~10:15	地震(震度3) 津波対応訓練	156名	10名	避難訓練
R6年12月10日(火) 10:35~11:00	園舎北側民家	153名	15名	消火訓練(模擬) 通報訓練(模擬) 避難訓練
R7年1月16日(木) 10:30~10:50	園舎東側民家	136名	32名	避難訓練
R7年1月27日(月) 10:20~11:00	不審者対応訓練	151名	25名	避難訓練
R7年2月12日(水) 10:00~10:30	地震(震度2)	155名	13名	避難訓練
R7年3月11日(火) 10:30~11:00	給食室	155名	13名	避難訓練

～自己点検・自己評価による気づき～

(保育教諭)

◎個人の評価◎

○評価点

- ・楽しく過ごせるように、発達段階に合わせた対応や関わりができた。
- ・小さな成長でも、こどもや保護者と共に喜ぶ事ができた。
- ・色々な行事で積極的にアイデアを出し、先生方と協力して作る事ができた。
- ・自分で考えて行動できたり、発言できるような声掛けを心掛けた事により、こども達の成長を間近で感じられた。
- ・計画的に行事などに取り組めた。
- ・1人ひとりのこども達、保護者に丁寧に関わる事ができた。
- ・ポートフォリオでこども達の成長を記録する事で、振り返りに役立った。

○改善点

- ・好きな事や、良い所を伸ばしていける環境づくりをしていく。
- ・特性をもっと周囲に知ってもらい関わり方を学べるようにする。
- ・情報交換をこまめに行い、共有していく中で自分の意見を言い合えるようにする。
- ・10の姿をもっと意識した保育を展開していく。

◎クラス運営の評価◎

○評価点

- ・ラインワークスを使い、伝達漏れがないよう情報を共有できた。また、クラス内でも情報交換や共有をこまめに行うことができた。
- ・職員皆が楽しく過ごせるように、コミュニケーションを多くし楽しい雰囲気づくりを心掛けた。
- ・安心・安全に遊べるような環境づくりを行う事ができた。
- ・チームワーク良く協力しながら、何事も進められた。
- ・こども達の好奇心を引き出し、「やってみたい!!」の気持ちを大切に一緒に楽しさを共有できた。
- ・自分でやろうとする気持ちを育て、友達と協力する場面を多く作った。
- ・基本的な生活習慣や自主性を高める事ができ、自分の力で動こうとするクラスになった。

○改善点

- ・目の前の事だけでなく、少し先の見通しをもち計画的に動けるようにしていく。
- ・一人一人の声にもっとゆっくりと向き合い、コツコツと丁寧に対応していきたい。

◎園全体の評価◎

○評価点

- ・見通しをもって取り組んでいた。作り物も細かく丁寧にとても計画的だと感じた。
- ・行事に対して新しいアイデアが生まれ、今までとは違ったやり方ができ新鮮だった。
- ・笑いありの中で職員との関わりが良好なものだったと感じている。
- ・ホップ、ステップ、ジャンプの話し合いができて良かった。
- ・ラインワークスやレーザーキッズをフル導入した事で、情報共有がスムーズに行えた。
- ・新しい事にチャレンジでき、こども達がより多くの経験をし成長する事ができた。
- ・全ての行事が無駄が少なく効率的に行う事ができた。
- ・こども達だけではなく、保護者にも行事や保育内容を喜んでもらえる事が多く、嬉しかった。
- ・新しい事にチャレンジしてみよう!と前向きに取り組む事ができた。それには先生方の協力があってからだと思う。

○改善点

- ・様々な行事について見通しをもって活動する。
- ・情報共有し、他のクラスの事も周知できるようにしていく。
- ・時代やこどもの変化とともに、柔軟性のある保育・教育へとアップデートしていく。

(栄養士・調理員)

○評価点

- ・他園の栄養士さんとも交流をもち新しいメニューを取り入れ、こども達が様々な食に触れる事ができるよう工夫した。また手作りおやつ等も頻度を増やす事ができた。
- ・盛り付けや飾りつけを、こども達でできるメニューを取り入れ、自分が作った物を食べる事への楽しさや達成感を感じてもらえるようにした。
- ・こども達が園の畑で野菜を育て、収穫し給食で提供する他、どんな料理で食べたいかを決めたり、食材の育生から食べるまでの食物の一連流れを学び、食の大切さについて学んでいた。
- ・コメント用紙を使用する事で、その日の味やこども達の人気・不人気も知る事ができた。

○改善点

- ・味付けのばらつきがあるので、見直しが必要。
- ・先生方との連携がスムーズに行えていなかったと思うので、日頃からコミュニケーションを積極的にとっていく。

## 〈令和6年度研修会〉

	研修会名	対象	開催日	場所	参加者	実施機関
1	青森県保育研修大会	保育者	6/17	ホテル青森	笹森・小倉	青森県保育連合会
2	附属幼稚園幼児教育セミナー	保育者	8/19	青森中央短期大学	鈴木・外崎・神・ 山口・羽賀	附属幼稚園
3	保育士等キャリアアップ研修	保育者	8/22.23	ホテル青森	中谷・鈴木	日本保育協会
4	教育・保育施設職員研修会	保育者	9/11	YouTube	中嶋礼	子育て支援課
5	保育研修会	保育者	9/20	ホテル青森	野呂	青森県保育連合会
6	教育・保育施設職員研修会	保育者	9/25	しあわせプラザ	外崎	子育て支援課
7	学校と地域のネットワークづくり	保育者	9/26	県総合社会教育センター	町田・羽賀	青森県教育委員会
8	保育士等キャリアアップ研修	保育者	10/29.30	ホテル青森	中谷・山口	日本保育協会
9	幼保小連携に係る研修	担当者	12/12	県総合社教センター	野呂	青森市教育委員会
10	保育士等キャリアアップ研修	保育者	2/4.5	ZOOM	千田・山口	青森県保育連合会
11	施設長研修会	施設長	2/10	ホテル青森	町田	青森市保育連合会
12	保育士等キャリアアップ研修	保育者	2/19.20	ZOOM	岩崎・増富	青森県保育連合会
13	東青地区こども赤十字研修会	保育者	2/20	日本赤十字社青森支部	神・鈴木	東青地区こども赤十字

## 令和6年度 事業評価

	拠点区分名称	ページ
①	法人本部	1
②	特別養護老人ホーム三思園（短期入所含む）	11
③	デイサービスセンター三思園	27
④	居宅介護支援事業所三思園	36
⑤	特別養護老人ホーム勝田三思園（短期入所含む）	39

## 令和6年度 法人本部 事業評価

### 1 基本方針・運営方針

- ① 地域社会に必要とされる法人を目指します。
- ② 法人内の福祉・保育・教育分野の協調・協同性を高めます。
- ③ 安定・持続的かつ透明性の高い事業経営に努めます。

### 2 目標

- ① 社会福祉法人としての役割を追求し、全うします。
- ② 地域包括ケアの深化・共生社会の実現に努めます。
- ③ 質の高いサービスを標準化し、新たなサービスを創造します。
- ④ 法人全体の組織力を向上し、人財育成文化を醸成します。
- ⑤ 財政基盤を安定させ、経営能力の維持・向上を目指します。
- ⑥ 情報開示システムを構築し、健全経営を推進します。

具体策の達成度 … 【○達成した、△ほぼ達成した、×達成できず】  
 実施状況・今後の方針等… 【⇒継続、⇒変更・追加 ⇒一時中止、⇒終了】

#### (1) 中期的な計画と推進策

計画・課題	推進策	達成度	実施状況・今後の方針等
社会福祉法人としての役割の追求	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 法人理念の意義や役割の共有</li> <li>② 地域における公益的な取り組みの企画・運営</li> </ul>	△	継続⇒①採用時等に法人理念を啓発、定着を促す機会を創出する ②県域で取り組む「しあわせネットワーク」に参画し、ワークサポート事業について全国に発信する機会を得た
地域包括ケアの深化 共生社会の実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 地域ニーズへ適応した事業展開</li> <li>② 地域福祉施設・医療機関等との情報共有・連携</li> </ul>	△	継続⇒①社会貢献活動を通じた地域・個人の個別ニーズに応じた事業展開を実施 ②活動圏域内外への ACP 等の情報を発信する。 ③災害対策について、他法人や町内会等地域資源との

	③ 災害対策等危機管理の強化		連携に不足している
サービスの創造・事業展開 法人のブランド化	① 学校法人や各拠点・事業所間の情報共有・連携 ② 新事業展開に向けた情報収集・構想 ③ 国籍や世代間を超えた交流	△	継続⇒①市内において広く実習生の受入れを実施するとともに、研究活動等において連携を深めた ②/③感染症対策と並行した地域交流・世代間交流等が十分に実施できなかったものの、農業体験はコミュニティファームとして認知症ケア等の観点から、継続意義を感じた。
ガバナンスの強化 人づくり文化の醸成	① 法人本部機能の明確化・組織体系の構築 ② 地域福祉の担い手確保・育成 ③ 働き方の多様性促進	△	継続⇒①法人本部機能の発揮により総合的・効率的な業務改善を実施、一方で組織体系の構築には至っていない ②地域に働きかける人材育成の仕組みについて検討中 ③個人や世帯の背景に合わせた業務を整理、働き方の幅を拡大している。
財政基盤の安定 経営能力の維持・向上	① 制度改正への柔軟かつ適切な対応 ② 実績やデータを活用した資産運用 ③ 経営資源の有効活用・スリム化	△	継続⇒①各改正等に伴い留意事項を確認、各拠点と情報・課題の共有を図る ②/③資産運用・経営資源活用ともに試算・検討までに留まった
健全経営の推進	① 戦略的・効果的な情報発信・広報活動 ② 情報セキュリティに関する知識・技術向上	△	継続⇒①HPやSNSを抜本的に見直し、適宜に用途を拡大している ②個人情報をはじめとした重要な情報に係るセキュリティ対策及び取り扱い上の意識を高める

## (2) 法人の課題と対策事業の実施

課題	具体策	達成度	実施状況・今度の方針等
法人理念の意義や役割の共有	① 法人本部及び各事業所の理念・方針の策定・整備	△	継続⇒掲げた理念や方針が現状に即したのか、会議等の場面で都度確認・見直しを行った。
	② 理念や目標の意識付け・浸透に向けたシステムの構築	△	継続⇒事業所内への掲示やOJTを通して、理念や目的の意識付け・浸透に繋げた。また掲示板(LINEWORKS等)に理念を貼り付ける等、更なる意識付け・浸透に努めた。

	③ 法人本部及び各事業所内における研修計画（OJT・OFFJTを含む）の作成・実践	○	継続⇒拠点ごとに実情に合わせた研修計画を作成し、実践に繋げた。オンライン研修のみならず、オフライン研修へ積極的に参加し、学ぶ機会を増やした。OJTでは「振り返り・行動プランシート（Google フォーム）」を活用し、経費削減・業務の効率化を継続した（三思園拠点）
公益的な 取り組み の企画・ 運営	① 「デスカフェ」・「認知症カフェ」の定期開催に係る企画・運営（三思園・勝田三思園）	△	継続⇒6/26 青森中央学院大学 経営法学部学生参加（三思園）、9/13 青森県立保健大学実習生考案（三思園）、11/9 コラボカフェ（弘前市）を企画・運営し、ACP（人生会議）を行う意義や多死社会に向けたデスカフェの役割を全国へ発信した。
	② 社会貢献活動としての「青森しあわせネットワーク」・「青森子ども宅食」への参画	△	継続⇒青森県社会福祉協議会（社会貢献活動推進室）との良好な関係性を維持・継続し、支援実績の増加に繋げた。子ども宅食は実践できず。
	③ 地域資源（人・場所・環境）や地域課題の把握及び新たな取り組みの考案	△	継続⇒「多世代交流」「コミュニティガーデン」「青森しあわせネットワーク」「ワークサポート×ワークスタディ」「デスカフェ」「ACP（人生会議）の普及啓発」「お食い締め」「施設葬」など、当法人の特色を生かした取り組みを継続しながら、地域課題・新たな取り組みについて模索した。
	④ 「どせばいい？カード」を活用したACP（人生会議）の普及・啓発	△	変更・追加⇒「どせばいい？カード」の第3版を増刷し、ホームページより寄付申し込みができる体制を継続した（全国各地より寄付申し込みを受け、都度郵送にて対応）
防災・危機管理機能	① 各拠点に係る町内と連携した防災体制作りの促進	△	継続⇒拠点ごとに民生委員や町内会長と顔の見える関係性の維持・継続を図った。9/21 横内町会で主催する「横内合同防災訓練」に参加することで、知識の向上に努めた（三思園拠点）
	② 各拠点における地域防災に関する担い手の育成及び計画作成に係る協力	△	継続⇒消防計画の見直しを行うとともに、各拠点における指揮統制を担う育成を継続できた。
	③ 災害・感染症（新型コロナウイルス等）を含む危機発生の	△	継続⇒各拠点へ「新型コロナウイルス感染防止対策指針」および「発熱者等対応マニュアル」の見直しを促した。今後もクラスターや新興感染症の出現等に注視した対応

	抑制に向けた指示及び発生時の指揮統制		が必要となるため、各事業所への助言・協力を継続していく。
	④ 各拠点における各検査・設備の維持管理等に係る協力	○	継続⇒老朽化した設備のインフラメンテナンスを図り、補修・修繕等の措置を行った(各拠点)
	⑤ 各事業所のBCP(業務継続計画)見直し・改良に係る協力・助言	△	継続⇒各拠点でBCP(事業継続計画)の研修・訓練(シュミレーション)を年2回ずつ実施し、現状に合ったBCP(業務継続計画)への改良を促した。
	⑥ 青森D-CATメンバーへの登録及び青森県災害福祉支援チームへの派遣協力	△	継続⇒今年度より名称が「青森D-CAT」から「青森D-WAT」へ変更・統一された。現在の登録メンバーは法人全体で3名。青森県災害福祉支援チームへの派遣協定も締結済み。派遣要請があれば都度協議し、可否を判断していく。
法人・各事業所間の連携	① 各事業所に係る法人本部職員の定期訪問・状況共有	△	継続⇒各事業所を訪問し、状況共有・助言を行った。Zoomを活用したオンライン会議等による情報共有も継続して実践した。
	② 各事業所に係る適材適所の人事異動計画の作成・起案	△	継続⇒各事業所において人事考課を実践し、管理者・主任等と職員の能力・適正について情報共有を継続して行った。また、離職等による欠員を補填する年度途中の異動・採用を起案した。
	③ 学校法人・各事業所(福祉・保育)の協同事業に係る協力・調整	○	継続⇒青森中央学院・短期大学の教員や学生と事業実施に係る連携・協働を継続した。5/24ラインメール青森FCの応援宣言を企画し、「中央福祉会サポーターズ」を結成。応援動画を作成するとともに、三思園・勝田三思園の入所者、中央文化保育園・浦町保育園の園児、ラインメール青森FCの選手が交流するきっかけとした。
	④ 各拠点間における定例会議(Web会議)の実施(移動コストの削減・情報共有の効率化)	△	継続⇒施設長相談員会議(三思園・勝田三思園)の定例開催を起案し、実施へ繋げた。Zoomを活用したオンライン会議等による情報共有と、LINEWORKSの活用や資料の電子化(PDF)にてコスト削減・効率化を継続した。
サービスの標準	① 将来構想委員会及び経営企画会議の定期開催	△	継続⇒法人本部内において、意見交換・情報共有を継続して行った。

化・創造	② 各事業所に係る環境整備の業務整理・効率化 (清掃員・用務員等を含む)	○	継続⇒制度改正に伴い、シルバー人材センターからの派遣(用務員)を終了した(三思園・勝田三思園拠点)加えて、清掃業務の外部委託により環境整備の質が向上し、コスト削減・効率化に繋がった(三思園拠点)
	③ 先駆的なサービス等の情報収集及び当法人の特色を生かした他法人とのネットワーク作りと情報発信(ACP:人生会議・デスカフェ・施設葬・青森しあわせネットワークへの取り組みに関すること)	○	継続⇒「青森しあわせネットワーク事業」・「保証人確保支援モデル事業」・「デスカフェ」・「ACP(人生会議)の普及・啓発活動」等を通して、多職種・異業種とのネットワーク作りを継続した。「青森県看護協会」「東京都小金井市図書館」「青森県社会福祉士会(五所川原市)」「南部町地域包括支援センター」「大鰐町地域包括支援センター」「地域包括支援センター浪岡」「三戸町地域包括支援センター」「青森県立中央病院」「東北町地域包括支援センター」等より依頼があり、講師派遣・事例発表を受諾・実践した。また「日本死の臨床研究会 年次大会」で施設葬ケアの取り組みを発表した。
	④ 各拠点に係るサービス(ケア)の質の保持・向上に向けたチェック機能の強化	△	継続⇒Zoomを活用したオンライン会議等へ参加し、各拠点の管理職から情報収集を行い、サービス向上のための助言・提案を行った。4拠点全てでLINEWORKSを活用し、効果的かつ効率的な情報共有や指揮統制に繋がった。
	⑤ 訪問看護・医療的ケア児等の新規事業に係る調査・コンセプトの明確化・収支計画の作成等	△	継続⇒関連リソース(青森中央学院大学看護学部卒業生)を活用した訪問看護の新規事業立ち上げに向けた情報収集(市場調査・コンセプトの明確化・収支計画の作成等)を実施した。今後も社会的ニーズに踏まえた医療的ケア児に係る情報収集に努め、新規事業展開の可能性を検討したい。
ガバナンス・コンプライアンスの強化	① 理事会・評議員会及び監事監査の実施	○	継続⇒評議員の選任、一次補正予算、業務執行状況報告等を行った。
	② 法人本部及び各事業所に係る定款・規程・指針等の制定・撤廃等の起案	△	継続⇒事業所の指定更新を受けて、運営規程や各種指針(身体拘束・事故・苦情等)の見直しを継続した。

	③ 社会福祉法人制度改革・税制改正・その他各制度改正への対応	△	継続⇒補助金制度を活用し、各拠点の施設に対し、設備投資を継続した。
	④ 法人全体に係る組織形態の整備・可視化	△	継続⇒法人組織図の活用し、組織形態の可視化を継続した。
	⑤ 法人本部及び各事業所の雇用形態・職種・役職ごとの業務分掌の作成・整備	△	継続⇒各拠点で雇用形態・役職に伴う業務分掌の整備・見直しを継続した。介護職員と介護助手の業務分掌を細分化することで、同一賃金・同一労働に繋げた。
	⑥ 法人本部運営に係る事業計画作成及び各事業所に係る事業計画の総合調整	△	継続⇒各事業所評価・計画をもとに総合調整を図り、統一性・一体性のある計画を作成した。
	⑦ 意思決定過程の質の向上 (起案書新様式の活用・浸透)	△	継続⇒起案書の活用を継続し、より多角的な視点な意思決定及び支出の適正化に繋げた。
	⑧ 法人全体に係るトータルリスクマネジメントの徹底	△	継続⇒LINEWORKS 活用のガイドラインを作成し、各拠点へ周知した。職員のモラル・ソーシャルコンプライアンスの遵守徹底を継続して図った。
人材育成・確保	① 法人本部及び各事業所に係る計画的な管理職育成システムの構築（経営視点を持った法人本部職員の育成等）	△	継続⇒法人本部機能として、各拠点・事業所の管理者・主任職に対してスーパービジョンを実践する等、より多角的な視点を持つ職員の育成に繋げた。
	② ケア方針と新人教育マニュアルの整備による科学的根拠に基づいたケアの推進	△	継続⇒ケア指針・新人育成マニュアルの整備・見直しを促し、科学的根拠に基づいたケアの推進に繋げた。
	③ 求人機能の向上、各拠点で SNS が活用できる仕組み作り	△	継続⇒求職者に具体的なイメージを持って貰えるよう、求人票のアップデートを図った（三思園・勝田三思園拠点）ホームページ・X・Instagram を活用し、各事業所の

			魅力発信を継続して行うことで、求人機能の向上に繋がった。また「ハローワーク」のみならず「福祉人材センター」への求人登録を行い、マッチングの可能性を高めた。
④	人事考課制度の継続活用及びキャリアパス制度の整備（新人をはじめとした人材育成・職場定着・マインドの醸成）	△	継続⇒各事業所で人事考課制度の活用を継続した。資格取得に向けた研修受講を積極的に促し、人材育成や職場定着に繋がるよう努めた。
⑤	福利厚生充実及びeラーニング（オンライン学習）の導入検討	△	継続⇒オンライン環境の整備・システムの構築を継続して行った。
⑥	青森しあわせネットワークにおける「ワークサポート」からの労働力確保（働きづらい方への働く場の提供）	○	継続⇒ワークサポートの受け入れを継続して行った。受け入れに関する助言を三思園拠点のみならず、勝田三思園拠点においても実績が作れた。
⑦	ワークサポート×ワークスタディ制度による人材確保（学生へ学びながら働く場所の提供）	○	継続⇒ワークスタディ制度（将来看護師・社会福祉士になるために必要な知識・スキルを学びながら働く）による学生の雇用を継続して行った。新たに10名の学生（青森中央学院大学 看護学部・経営法学部）（青森中央短期大学 幼児保育学科）（青森県立保健大学 社会福祉学科・看護学科）を特養三思園・デイ三思園・特養勝田三思園の介護助手として雇用した（計16名の学生を雇用）ワークサポートを利用することで、無理なく段階的に就労できる体制を維持した。
⑧	（障害者雇用）身体・知的・精神障害を問わず、個別性を重視した職務環境の実現	△	継続⇒新規障害者雇用の実績なし。合理的な配慮・職務環境整備を継続して行った。
⑨	外国人介護人材受け入れの在り方に関する情報収集（三思園・勝田三思園）	△	継続⇒実際に外国人人材を受け入れている事業所を見学し、情報収集を行った。今後もOFFJTや各関係機関より、外国人介護人材受け入れの在り方について情報収集する必要あり。

	⑩ 法人本部及び各拠点におけるOJTの機能強化 (講師・ファシリテーターとしての協力)	△	継続⇒各拠点間の専門職同士が意見交換できるよう橋渡し、コーディネートを継続して行った。また研修の企画・ファシリテーターを担い、機能強化を継続した。
働き方改革	① 各事業所に係る勤務形態・業務改善への協力	○	継続⇒特養三思園・特養勝田三思園の勤務時間(夜勤を含む)を整備し、働き方や処遇差の改善に繋げた。5棟編成(小グループ化)・ユニットケアを推進し、ケアの質の向上へ繋げた。
	② 労務管理に係る効率性・利便性等の向上	△	継続⇒社会保険・雇用保険に係る手続きに「e-Gov 電子申請」を導入した。通信運搬費等のコスト削減・より迅速な手続きに繋がるため継続したい。
	③ 各事業所に係るICT・IOTを活用した業務改善の提案・協力 (Web教育の試行的導入)	△	継続⇒各拠点でオンライン会議・研修等が可能となるようICT機器(プロジェクター・マイク・照明等)の活用を継続した。
	④ 介護ロボットの導入を含む腰痛予防対策に関する組織的な仕組み作り(三思園・勝田三思園)	△	継続⇒「ノーリフティングケア推進プロジェクトチーム」三思園・勝田三思園拠点間の橋渡し・コーディネートを継続し、勝田三思園拠点の「ノーリフティングケア推進事業 令和6年度モデル施設」の取り組みについて、助言・サポートを実施。
	⑤ 職員間における連絡手段の効率化・充実 (LINEWORKSの活用)	△	継続⇒LINEWORKSを活用し、連絡手段の効率化・充実へと繋げた。グループ機能やカレンダー機能に加えて、掲示板機能を活用することで、効率化を促進させた。職員のリテラシー向上をサポートしながら、新規採用・異動・退職等があった際のID作成・ログイン・ログアウト等についても迅速に対応した。
	⑥ 家族等に対する画像配信等の仕組み作り(三思園・勝田三思園)	△	継続⇒LINEアカウント(オンライン面会用)を活用し、退所者へ思い出の画像・動画を配信・提供した。入所中の家族等への定期配信について、今後も議論を重ねる必要あり。
	⑦ 職員のバーンアウト防止・看取り後のグリーフケア(外部)	○	継続⇒「看取り後の振り返り」で対話の機会を確保した。加えて外部リソースとして「臨床宗教師」を活用し、職員のバーンアウト防止・グリーフケア等に繋がるような

	リソースの活用等を含む)		仕組みを構築した。
	⑧ 有給休暇取得率の向上	△	有給休暇を取得しやすい風土づくりとして、各拠点管理者より働き方（ワークライフバランス）の重要性を発信するよう促した。
財政基盤 の安定	① 法人内の（補正）予算・決算書の作成 （会計委託先の活用）	○	継続⇒経理業務の外部委託により、効率的かつ的確な会計処理に繋がった。
	② 適正な支出管理	△	継続⇒各部署から支出に関する起案書の提出を徹底したことで、事前に支出の把握ができた。小口現金の取り扱いに関するルールについて、周知徹底を図った。
	③ ペーパーレス化の促進（クラウド保管）	△	継続⇒DocuWorks（FAXのペーパーレス）の導入・クラウド保管・PDF活用によりペーパーレス化の促進に繋がった。
	④ 法人本部及び各事業所における経営収支分析	○	継続⇒会計委託先と連携をとり、月次処理報告を規程上の日付で報告を受け、収支の分析を判断することができた。介護報酬改定による収入分析予想と結果を対比し、客観的な経営状況の把握に努めた。経営状況の悪化を踏まえ、R6.4.1より訪問介護事業を休止した。
	⑤ 各サービス事業における加算取得の促進	△	継続⇒各事業所で取得可能と見込める加算を整理し、管理者・主任職と情報共有を継続した。
	⑥ 各種手当・賞与を含めた給与形態の見直しに係る起案 （資格手当・夜勤手当・寒冷地手当等を含む）	△	継続⇒同一賃金同一労働の視点から、各種手当・賞与を含めた不合理な処遇差がないか見直しを行った。人材確保（特に夜勤業務を可能とする介護職員）といった観点から、夜勤手当をアップした。

情報公開・透明化	① 社会充実計画の策定（必要に応じた策定）	△	継続⇒10ヵ年計画で、既存の建物及び設備の充実及び老朽化した施設の改修を行った。
	② HP や SNS 等を活用した情報発信・情報公開	△	継続⇒ホームページ・X・Instagram 等による情報発信を継続した。行事・イベント後の情報発信は各事業所の担当者と連携しながら、迅速な記事更新ができた（三思園拠点・勝田三思園拠点）
	③ 第三者評価機関との連携	△	継続⇒第三者評価機関と意見交換・連携を継続し、法人全体の透明性確保に努めた。

## 令和6年度 特別養護老人ホーム三思園（短期入所含む）事業評価

### 1 基本方針・運営方針

- ① 人生の最終段階を迎えてからも、最後まで尊厳を保ち、穏やかな気持ちで生活できるよう支援します。
- ② 地域貢献を通じ、身近に感じられる施設を目指します。
- ③ 学生との共働により、新たなサービスを展開し、食と心の豊かさの増進に努めます。

具体策の達成度…【○達成した、△ほぼ達成した、×達成できず】

実施状況・今後の方針等…【⇒継続、⇒変更・追加、⇒一時中止、⇒終了】

#### (1) 中期的な計画と推進策

計画・課題	推進策	達成度	実施状況・今後の方針等
質の高いサービス提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 尊厳のある個別ケアの実現</li> <li>② 医療的ケア・看取り介護の充実</li> <li>③ 要望・嗜好・機能に合わせた食事の提供</li> <li>④ 維持期・人生の最終段階における効果的なりハビリ実践</li> <li>⑤ 多職種協働・連携および他職種の理解</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>①⇒継続 身体拘束の該当者なし。介護リーダーを中心とした個別ケアの実践に取り組んだ。</li> <li>②⇒継続 入所者の変化に応じた ACP（人生会議）の開催、看取りの振り返り（事例毎）を継続し、9名のお看取り実施した。</li> <li>③⇒継続 感染症対策に努めながら、個々の要望・嗜好・機能に合わせ、柔軟に対応した。</li> <li>④⇒継続 除圧・安楽な体勢作り等、苦痛の緩和や精神的安定を図った。</li> <li>⑤⇒継続 細やかな情報共有により多職種協働・連携に繋げ、他職種理解に努めた。</li> </ul>
環境整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 施設修繕・補修等の実施計画・実施</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>①⇒追加 ケアの効率性や BCP（災害・感染症）を視野に入れた設備修繕・改修を実施した。 また、介護ロボット・ICT の導入で担い手不足を補い、生産性の向上に繋げた。</li> </ul>

<p>地域福祉の向上</p>	<p>① 社会貢献活動の強化 ② 地域福祉・医療機関との連携 ③ 法人独自の地域サービス展開</p>	<p>○</p>	<p>①⇒継続 法人本部と連携し、青森しあわせネットワークやACP（人生会議）の普及・啓発活動を継続した。 ②⇒継続 横内まちづくり協議会（横内町会）が主催する行事等に積極的に参加した。また協力医療機関との顔の見える関係性を継続した。 ③⇒継続 法人本部と連携し、デスカフェの運営を継続して行った。</p>
<p>福祉人材の確保・育成</p>	<p>① 人事評価を生かした指導・教育体制の構築 ② キャリアパス・給与体系・評価制度の充実 ③ 適正な人員配置・人事異動</p>	<p>△</p>	<p>①⇒継続 人事評価や面談を継続し、個々の意識改革と資質の向上に繋げた。 ②⇒継続 法人本部と連携し、キャリアパス・給与形態・評価制度の見直しを図った。 ③⇒継続 個々の能力や欠員の状況に合わせた人員配置・人事異動を行った。</p>
<p>法人連携</p>	<p>① 学生・実習生・園児との協働 ② 法人の情報共有</p>	<p>○</p>	<p>①⇒継続 実習生・ワークサポート等の受け入れや園児との協働（行事）を継続し、多世代交流を図った。 ②⇒継続 施設長・相談員会議を定期開催し、法人内の情報共有に努めた。</p>
<p>効果的かつ安定した経営</p>	<p>① 取得加算の維持・見直し ② 稼働率の維持・向上</p>	<p>○</p>	<p>①⇒継続 4月1日より「認知症専門ケア加算」の算定を開始した。 ②⇒継続 新規入所者（利用者）の獲得、看取りケアの継続により、稼働率の維持・向上に繋げた。</p>

(2) 各事業・サービスの課題と対策事業の実施

課題	具体策	達成度	実施状況・今後の方針等
5 棟編成機能	① 5 棟編成による介護助手配置と週間表の作成	○	⇒変更 5 棟編成を継続（介護助手を各棟へ配置）したことで、入所者の希望に沿った個別ケアに繋がった。LINEWORCKS の掲示板機能で勤務表や週間表を共有し、生産性の向上に繋がった。ユニットリーダー研修の受講により、ユニットケア（5 等編成）の理解が深まった。
	② 勤務形態やタイムスケジュールの見直し・工夫	○	⇒継続 夜勤を 14 時間勤務（16：30～8：30、17：00～9：00）へ変更し、適正な職員配置と業務の効率化に繋がった。
	③ 5 棟会議の定期開催（月 1 回＋ ④ 必要時）（課題共有・問題解決策の抽出）、棟会議随時開催	○	⇒変更 リーダー会議・棟会議を定期開催することで、課題共有が迅速かつ的確になり、早期解決に繋がった。またチームケアに対する意識を維持・向上にも繋がった。
	⑤ 24 時間シート及び棟ごとのタイムスケジュールの活用・見直し（毎月更新）	○	⇒追加 24 時間シートの更新（毎月）を継続することで、現状把握と適正な職員配置の根拠を確認した。LINEWORCKS の掲示板機能で 24 時間シートを共有し、生産性向上に繋がった。
	行事・余暇活動の充実	① 生活に対する意向・要望の定期的な確認	○
② 余暇活動や行事の企画・準備		○	⇒継続 感染症対策を講じながら、慰問の受け入れや行事の企画・実施を行った。
③ 外出・外食機会の提供 ④ お買い物レク等での企画・準備		○	⇒継続 ラインメール青森 FC の応援宣言を行い、外出（試合観戦）を企画・実施した。加えてお買い物レクも継続して企画・実施した。
⑤ 学園・幼稚園・保育園行事への参加（運動会・七夕会・学園祭等）		○	⇒継続 感染症対策を講じながら、季節の行事を通じた園児・学生との世代間交流を継続した。
⑥ 各棟にて個々に合わせた入所者の誕生会の企画・実践		○	⇒継続 入所者の誕生日に合わせ、手作りケーキやプレート等、個別に工夫を凝らしたお祝いを棟毎に企画した。
⑦ 余暇会議の随時開催		○	⇒終了 現在、余暇会議は実施せず。各棟のサブリーダーを中心に行事、レクリエーションの企画・実施をしている。各棟でイベントを企画・実施し、その内容

			を HP・SNS にて発信した。
開かれた 施設作り	① 苦情・トラブルへの迅速かつ適 (ア) 切な対処	○	⇒継続 苦情につながる案件は発生せず。意見や要望を都度聞き入れ、サービスの向上に繋げた。
	② ② 掲示物における苦情処理体制 の周知徹底	○	⇒継続 苦情処理体制は誰でも閲覧できるよう、面会ブースの前に設置している。また新規入所時の契約締結の際も丁寧に説明できた。
	③ 苦情受付体制・マニュアルの整備	○	⇒継続 現状に即した苦情受付体制・マニュアルとなっているか、都度確認・見直しを行った。
	④ 家族懇談会 (年 2 回)	△	⇒変更 家族会には 14 組 30 名のご家族が参加した。職員紹介や新たにワークスタディの学生紹介を行った。他の行事を充足化する目的から、来年度以降の開催は年 1 回としたい。
	⑤ 家族アンケートの継続・活用	○	⇒継続 12 月に郵送にてアンケートを実施した。アンケート結果を多職種や家族へと共有し、ケアの改善・向上へと繋げた。(HP へ掲載)
防災・地 域福祉	① 災害発生時における BCP (事業継 続計画) の策定、研修の実施、訓 練 (シュミレーション) の実施。 夜間想定を含めた防災訓練の計 画・実施 (消火・放水訓練・避難 訓練・通報訓練など年 2 回)	○	⇒継続 法令遵守に基づき、消防訓練・BCP の研修・訓練を予定通り実施できた。BCP (事業継続計画)・消防計画・避難確保計画については、LINEWORKS の掲示板機能で観覧可能となった。
	② 地域住民と連携した防災体制作り	△	⇒継続 防災訓練への参加・協力を継続し、地域・町会との顔の見える関係性を構築した。
	③ 機関誌「春夏秋冬」に替わる、H P の有効活用	○	⇒変更 「春夏秋冬」の発行は休止中で再開の見込みはない。イベントや行事の都度 HP に記事を掲載し、地域へ施設の魅力を発信した。
	④ 地域・町会・圏域内施設の行事・ 祭りへの参加	○	⇒継続 6 月に横内地区のコミュニティガーデンに参加した。7 月には横内中学校の生徒と合同で、クリーンアップ作戦 (活動) にも協力した。

	⑤ 地域児童・生徒の職場体験受け入れ（横内中学校等）	×	⇒終了 新型コロナウイルスが5類となるも、受け入れの見通し立たず。
	⑥ 地域資源（人・場所・環境）や情報（地域課題）の把握。	○	⇒継続 9/21 南地域包括支援センター主催の防災研修へ参加し、知識を深めた。その他オンライン研修や待機者状況調査等を通して他事業所（特養・医療機関）の現状や取り組みについて把握・共有に繋げた。
	⑦ 関係機関とのネットワーク構築・顔の見える関係作り (ア)（地域ケア会議への出席）	○	⇒変更 11/27 に南地域包括支援センター主催の「相談協力員研修会」へ出席した。町会長、民生委員等へ事業所を紹介するなかで、特養・老健・GH・有料等のソーシャルワーカーとネットワーク構築・顔の見える関係作りに努めた。
	⑧ HP による情報公開・透明性の確保	○	⇒継続 HP の活用により、情報更新が迅速化され、公開する情報の適正化・透明性の確保にも繋がった。
	⑨ 外部向け「デスクカフェ」開催（開催内容・時期の工夫）	○	⇒継続 昨年に引き続き、弘前市で社会福祉法人豊徳会・NPO 法人ココキャンとの3団体コラボにて「どせばいい？カード」を活用したデスクカフェを開催した。また、青森中央学院大学経営法学部の教員及び学生を招き実施した。（三思園拠点）
法人連携	① 保育園・幼稚園の慰問・交流	○	⇒継続 新型コロナウイルスが5類に移行後、季節の行事（七夕会・クリスマス飾り交流会等）を活性化させた。
	② 学生ボランティアの協力推進	○	⇒継続 イベント・行事の際は、学生のボランティアを募った。中央文化保育園の運動会では青餅中央短期大学（幼児保育学科）の学生5名を受け入れた。
	③ 実習生（社会福祉士・介護福祉士・看護師・栄養士等）の積極的な受け入れ	○	⇒継続 青森県立保健大学より4名・青森大学より2名（社会福祉士）、青森明の星短期大学より1名（介護福祉士）、青森中央短期大学専攻科福祉専攻2名（介護福祉士）、青森中央短期大学より4名（栄養士）、青森中央学院大学（看護師）76名の実習生を受け入れた。
	④ 海外からの施設見学受け入れ・交流	○	⇒継続 7/10 台湾の馬偕医護管理専科学学校約20名の見学、3/12 グェンタットタイン大学施設職員4名見学を受け入れた。

	⑤ 福祉職の魅力発信および職場体験 (青森中央短期大学 幼児保育学 科)	○	⇒継続 12/4 木造高等学校の生徒4名が施設見学・介護体験を行った。
	⑥ 食事・栄養に関する協働企画・サ ービス展開・研究 (青森中央短期大学 食物栄養学 科)	○	⇒継続 青森中央短期大学食物栄養科1年生の、高齢者を対象とした手作りおやつ実 習を受け入れた。(合計2日間)
	⑦ 合同勉強会の開催 (青森中央短期大学 専攻科福祉専 攻)	×	⇒終了 青森中央短期大学専攻科福祉専攻の学生募集停止に伴い、終了とする。
尊厳の保 持	① 身体拘束に関する記録・同意書 作成・必要性の確認・説明	○	⇒継続 年間通して身体拘束せざるを得ない対象者なし。不適切なケア・虐待に繋が りうる対象者について、都度、委員会で話し合いを行った。
	② 解除時間の増加および拘束廃止 に向けた取り組みの実践	○	⇒継続 上記①同様対象者なし。
	③ 身体拘束・高齢者虐待に関する研 修の実施(年2回)	○	⇒継続 法令に基づき、年2回ずつ実施。
	④ 権利擁護委員会の定期開催 (3カ月に1回+必要時に随時 開催)	○	⇒継続 虐待・身体拘束になり得るケースがないか、多職種で情報共有を図った。
褥瘡予防 対策	① 褥瘡発生における危険因子のアセ スメント。新規入所後(1回目の 入浴時)多職種でアセスメントを 行う。(リスクの把握、マットレス	○	⇒継続 各利用者の皮膚状態を観察し、危険因子を予測したケアの実施ができた。新規 入所の入浴時(初回)は、看護職員を含む多職種で共有した。

	の選定など)		
②	アセスメント内容を LIFE ((科学的介護情報システム) に送信し、計画書に反映させる	○	⇒継続 LIFE による、評価基準 (危険因子の評価、DESIGN-R) に従い、1 回/M 評価した。
③	褥瘡防止用具類 (リース) の活用および使用者の見直し	○	⇒継続 入所者の状態に合わせて、その都度変更を行った。
④	除圧の徹底 (背抜き・体位変換・クッションでの耐圧分散、ズレ・応力・圧力のかからないギャッジアップ手順の徹底)	△	⇒変更 看取り期では褥瘡の発生の高リスク状態が継続しているため、褥瘡除圧グローブの実施、クッションを使用し体圧分散に努めた。ギャッジアップの手順が未定着であることから、実際の場面や研修で学びを深めた。
⑤	皮膚の清潔・保湿および適切な軟膏処置	○	⇒継続 多職種で皮膚の清潔・保湿に努めた。
⑥	効率的かつ効果的な排泄用品の見直し・購入・活用	○	⇒継続 褥瘡・排泄委員会会議を活用し、各棟の排泄用品の見直し、入所者に合った排泄用品の見直しを随時実施した。スキントラブルが見られる入所者対象に、皮膚状態に合わせた排泄用品を使用し、スキントラブルの改善が見られた。コストダウンや生産性向上 (1 日 2 回交換を視野に入れ) を目的とし、1 月よりおむつ業者を変更した。
⑦	各利用者に合った交換時間・ランクの見直し・変更	○	⇒継続 棟ごとに話し合い、各入所者に合った交換時間・ランクの見直し、変更を随時実施した。
⑧	機能や状態に応じた排泄援助の選択	○	⇒継続 状態変化に応じて、随時変更した。
⑨	各利用者の状態に応じた棟ごとの入浴対応	○	⇒継続 ミスト浴による入浴方法が追加された事で個別ケアの強化に繋がり、効率性も増し業務の円滑化及び感染症対策に繋がった。効果的な入浴方法の確立によ

	⑩ 褥瘡・排泄委員会の定期開催（月1回）	○	⇒継続 り、看取り期の入所者に対する身体的負担の軽減と生産性向上に繋がった。計12回実施した。合わせて、褥瘡予防についての知識を深める目的で研修も実施した。
感染症・腰痛対策	① 室温・湿度の管理徹底（定時換気／気温・湿度の記録）園内放送によるアナウンスをし、定期的換気の徹底	△	⇒継続 新型コロナウイルスは5類へ移行後も感染対策（手洗い、マスクの着用）を継続した。新型コロナ発症については最終的に今年度、職員8名、入所者21名、合計29名陽性となった。インフルエンザ陽性者は0名、ノロウイルス感染者は0名であった。
	② 新型コロナウイルス・インフルエンザ等の感染症予防の徹底及び発生時の対応強化。県の感染情報をもとに面会制限を実施。各棟で対応できる具体的ケア・対応内容の検討	○	⇒変更 新型コロナウイルスが5類へ移行となり、玄関の飛沫防止シート、面会ブースの亚克力板は撤去した。また、感染した職員の復帰日やレッドゾーンの解除日については、LINEWORKSを活用し、各部所で共有した。面会は予約制としているが、入所者が看取り期の際は居室対応とする等、臨機応変に対応した。
	③ 腰痛予防対策指針（厚労省作成）に基づくケアの促進	○	⇒継続 年2回（5・11月）の腰痛調査を実施した。LINEWORKSにて発信しGoogleフォームを活用した。
	④ 感染症対策の指針の整備、研修、訓練（シュミレーション）の実施		⇒継続 法令に基づき、研修・訓練を2回ずつ実施した。
	⑤ 感染症発生時におけるBCP（業務継続に向けた計画等）の策定、研修の実施、訓練（シュミレーション）の実施	○	⇒継続 標準予防策として、PPE（個人防護具の着脱）・手洗いについて訓練を実施した。
	⑥ 感染症対策委員会の定期開催（3カ月に1回＋必要時に随時開催）	○	⇒継続 計6回開催。定期開催に加え、感染症発生時には臨時委員会を開催した。
看取り介護の充実	① 人生最終段階における医療・ケア決定プロセスに関するガイドライ	△	⇒継続 施設におけるACPの方針・重要性について、施設申し込み時・新規入所時にパンフレット（施設葬啓発冊子）を用いて三思園での看取り介護についての説

ンの共有		明を行った。
② 人生会議（ACP）の実践（本人の意思決定を基本に・適切なタイミングで・繰り返し行う）	○	⇒継続 「本人だったら何を望むのか」を基本とし、適切なタイミング（新規入所時・状態変化時等）で繰り返し実施した。
③ 施設サービス計画書（看取り介護計画）の作成・見直し・同意書作成	○	⇒継続 状態変化時等、人生会議の開催に合わせて看取り介護計画・同意書を作成した。看取り期より回復が見られた入所者についても計画の作成・見直しを随時行った。
④ 看取介護指針・緊急時マニュアルの共有・見直し	△	⇒継続 看取り介護委員会及び看取りの振り返りにおいて、随時、指針の整合性を確認し、見直しを行った。
⑤ 医師・医療機関との連携および24時間連絡体制の確保	△	⇒継続 看取り実施率の向上により、緊急で外部医療機関と連携・連絡する機会が減った。
⑥ 医療的ケア（経管栄養注入・痰吸引）の確保（喀痰吸引等研修の受講者増）	○	⇒継続 2名の介護職員を養成し、医療的ケアの確保に繋げた。
⑦ 静養室（個室）の環境整備	○	⇒継続 お食い締め等に多職種で取り組んだ。ナラティブが引き出せるよう、写真や音楽を活用し、環境整備を行った。
⑧ お別れ会・施設葬の執行・思い出のアルバムを活用したグリーンケア	○	⇒継続 家族・入所者・スタッフと共に三思園でのお別れ会・施設葬を実施した。逝去の際は、入所者ごとのアルバムを迅速に準備し、ご家族と一緒に振り返り、グリーンケアに繋げた。
⑨ 看取り介護の振り返り（事例ごとに実施）	○	⇒継続 次回の看取りケアに活かされるようSDMの9項目を参考にし、多職種で振り返りを行った。
⑩ 看取り介護に関する研修の実施（年1回）	○	⇒継続 看取りについての理解・認識・論理的思考を深めるため、研修を実施した。

	⑪ 内部向けのデスカフェの開催（開催内容・時期の工夫）	○	⇒継続 ソーシャルワーク実習（青森県立保健大学）において、学生が主催し、職員8名が参加した。
安全で楽しめる食事提供	① 栄養ケア計画書の作成・計画内容見直し・評価（低栄養リスク評価に基づいた週3回以上のミールラウンド実施）	○	⇒継続 個別機能訓練計画書、褥瘡計画書作成と合わせて3ヶ月毎に作成・見直しを行っている。栄養評価は毎月全入所者に対して実施しLIFEに該当情報を提出している。また管理栄養士を中心に全ての入所者に対してミールラウンドを実施した。
	② 嚥下・咀嚼機能に合わせた食事形態の工夫（適切な食事介助技術や完全側臥位法の周知）	○	⇒継続 完全側臥位法の職員への周知、その他安全な食事介助技術の検討・実施を継続した。
	③ 疾病に応じた療養食の提供	○	⇒継続 入所者の状態に合わせて、糖尿病食の提供を継続した。
	④ 定期的な採血データの収集・活用（低栄養者の把握）	○	⇒継続 栄養状態に合わせた補助食品の提供を実施した。エンシュアH、エンジョイゼリープラス、MCT オイルなど入所者の摂食嚥下能力、嗜好に合わせた提供を行った。
	⑤ お茶ゼリー・水ゼリー・嗜好飲料の活用による水分摂取量の強化（1日の水分量：体重×30）	○	⇒変更 お茶ゼリー又は果汁ジュレの提供を継続した。水ゼリーについては、摂取者が減ったため提供を一時休止。
	⑥ 嚥下機能に合わせたトロミの効果的な活用・勉強会の適宜開催	○	⇒継続 新人職員を中心にトロミの付け方の指導を実施した。その他トロミ強度のバラつきが見られる際は、口頭にて都度指導した。
	⑦ 季節や行事に合わせた献立	○	⇒継続 施設行事に合わせた献立や季節の献立、お楽しみ献立などを月3回以上提供した。また手作りおやつや施設所有のアイスクリームメーカーを用いてなめらかアイスの提供を随時行った。
	⑧ ソフト食の提供・効果測定・定期試食会（委託業者との連携）	○	⇒継続 職員や栄養・看護実習生を対象にソフト食の試食会を実施。味や見た目の評価を行い委託業者との連携に活かした。
	⑨ リハビリ・栄養・口腔管理委員会の開催（月1回）	○	⇒継続 多職種が参加する委員会を月1回開催し、栄養状態・食事摂取状況などの情報共有を行った。

経口維持・口腔衛生管理	① 歯科医師との連携による口腔機能評価の実施・周知	○	⇒継続 経口維持加算算定者や誤嚥の可能性のある入所者を対象に実施した。
	② 経口維持計画書の作成・計画内容見直し・評価	○	⇒継続 栄養ケア計画書の作成に合わせて、3ヶ月ごとに経口維持計画書を作成・見直しをしている。
	③ 経口維持加算に関する会議の開催（リハビリ・栄養・口腔管理委員会内にて実施）	○	⇒継続 リハビリ・栄養・口腔管理委員会内にて経口維持加算算定者の状況、ケア内容の見直しを行った。
	④ 口腔ケアに関する研修の受講（歯科医師・歯科衛生士からの口腔衛生管理体制に係る具体的な技術助言及び指導）（年2回）	○	⇒変更 青森県歯科医師会主催「介護職員の口腔ケアに対する知識・技術の習得、口腔衛生管理体制の研修会」に参加した。（10月・1月） また研修参加後に研修内容を伝達するための園内研修も実施した。
	⑤ 歯科医師・歯科衛生士からの口腔衛生管理に係る具体的な技術助言及び指導に基づく口腔衛生管理体制計画の作成	○	⇒継続 東ミナトヤ歯科医院から具体的助言及び指導を得て、口腔衛生管理体制計画を作成した。（4月・10月）
	⑥ 口腔衛生管理体制計画に基づいた口腔ケアの実施、口腔ケア用品の整備	○	⇒変更 リハビリ・口腔・栄養委員会メンバーを中心に、個別に合った口腔ケアの実施、口腔ケア用品の整備を行った。今年度から新たに「360Do ブラシ」の活用を開始した。
	⑦ 定期的な口腔の健康上状態のスクリーニング及び口腔衛生管理体制に関する会議の開催（リハビリ・栄養・口腔管理委員会内にて実施）	○	⇒継続 委員会内にて現在の口腔衛生管理体制について、今年度実施する研修会の日程について、参加後研修内容の周知を行った。また入所者の口腔衛生状態の共有や義歯調整に関する検討も実施した。
リハビリの充実	① 多職種連携による個別機能訓練計画書の作成・見直し・評価（3か月に1回）	○	⇒継続 月1回のリハビリ・口腔・栄養委員会の場を活用し、多職種連携による評価・見直し・計画作成を実施できている。個別機能訓練加算(I)(II)の算定を継続した。

	② 個別機能訓練の充実・稼働向上 (リハビリ訓練機器の活用、生活環境に合わせた訓練の実施)	○	⇒継続 身体機能に合わせた訓練内容を立案、実施している。1週間の予定表を作成し、稼働を管理ながら個別機能訓練を実施した。
	③ 生活リハビリを意識した関わり (残存機能を活かした運動)	○	⇒継続 ベッド上でのポジショニングや日常生活動作訓練など、入所者毎に個別に計画へ立案した。状態変化に合わせて柔軟に計画立案できるよう、多職種での情報共有を密にしていく。
	④ 体操・レクリエーション・ゲーム等を活用したグループにおける運動・訓練の工夫・見直し実施	○	⇒継続 午前定時での集団体操実施を継続した。機能訓練や生活リハビリに繋がるよう、脳トレや手指運動を取り入れた内容で、レクリエーションが実施できるよう、多職種で協働していく。
	⑤ 福祉用具選定相談員との連携による、全職員の車椅子シーティング技術・ベッド上ポジショニング技術の習得	○	⇒継続 新規入所時及び入所後の状態変化に応じて、ポジショニングや車椅子シーティングの検討や職員への申し送りを実施した。
	⑥ リハビリ・栄養・口腔管理委員会の定期開催(月1回)	○	⇒継続 入所者の心身機能の変化を多職種で共有しながら、個別機能訓練計画の見直しを定期的に実施できた。
リスク管理	① ヒヤリハットのケース・LINEWORKS・連絡帳活用による共有	○	⇒継続 日頃から状態変化等、細かく入力した。各棟で連絡帳の他、LINEWORKSも活用し情報共有を。介護システム(ほのぼの)の掲示板申し送りに流すことで、全棟での情報共有がスムーズに行われた。事故の件数に比べてヒヤリハットの件数が減少の為各棟へ呼びかけ、事故防止に繋げる。
	② 事故発生時および緊急時の迅速な対応	△	⇒継続 誤薬事故4件、市への事故報告件数4件(新型コロナウイルスのクラスター報告が1件)。保険者の指示により、クラスター終息後5日以内に迅速に報告した。
	③ 安全に配慮した効果的な福祉用具選定・見直し(車椅子・ベッド・マットレス・離床センサー等)	○	⇒継続 福祉用具専門相談員と連携し、福祉用具を選定した。転落事故防止のための超低床ベッド7台、離床センサー6台(ショートステイ利用者使用時最大で7台)を活用。入所者の状態に応じて随時見直しを行い、転落事故防止と、職

			員の精神的負担軽減を図った。床走行リフト2台導入し、介助者の負担軽減・生産性向上・ケアの質の向上へ繋げた。使用者を選定し身体の拘縮軽減（筋緊張など）の効果が期待できる。
	④ ICT・ロボット等先進機器を活用したケアの情報収集・実践	○	⇒継続 研修等を通して情報収集を行った。見守り支援機器(見守りカメラ)の説明会とデモ機使用の体験会を実施した。
	⑤ 事故防止に関する研修の実施(年2回)	○	⇒継続 事故報告書の目的や記入方法、苦情対応について研修を行った。
	⑥ 事故防止委員会の定期開催(年2回他必要時に随時開催)令和3年度介護報酬改定に伴い、事故発生防止の為の指針の整備	○	⇒変更 年2回の他、必要時に実施した。
多職種連携・情報共有	① 情報共有に関してシステム(ほのぼの)からLINEWORKSを活用した情報共有への移行	○	⇒変更 介護システム(ほのぼの)とLINEWORKSを用途・場面に応じて使い分けることで、情報共有がスムーズになった。
	② ケアチェック表による効果的なアセスメントの継続	○	⇒継続 ショートステイ連続利用の利用者について入所者同様のケアチェック表を活用する事で、効率的なアセスメントに繋げている。
	③ 施設サービス計画書の作成・見直し・評価	○	⇒継続 施設長、生活相談員、介護リーダーの3名がケアマネジャーを兼任し、ケアマネジメントを実施した。
	④ 個別援助計画書の作成・見直し・評価	○	⇒継続 3カ月ごとに作成・見直し・評価を実施した。
	⑤ サービス担当者会議の定期開催(月1~2回)	○	⇒継続 担当ケアマネジャーが調整・進行し、定期開催した。
	⑥ 多職種連携に関する研修の実施(年1回)	×	⇒終了 義務化された研修の増加に伴い、実施できず。来年度以降も再開の見通しは立たず。

	⑦ 入所判定会議の定期開催（年4回＋必要時に随時開催）	○	⇒継続 施設入所指針に基づき、適切に実施する事ができた。
設備管理・老朽化対策	① 必要な修繕・補修の実施計画の作成	○	⇒継続 生産性向上や災害・感染症対策を視野に入れた設備修繕・改修を実施した。
	② 必要な物品購入・リース契約の相談・提案	○	⇒継続 最先端福祉機器を導入することにより、入所者の QOL・労働環境の改善を追求した。
	③ 車輛の管理・点検・破損等への迅速な対応	○	⇒継続 車両を使用する度に破損等の点検を実施した。
	④ ボイラー・電気等の設備に関する管理業務の整備	○	⇒継続 無圧温水ヒーター点検整備の定期検査（年1回）を実施した。
働きやすい環境作り	① 人事評価の手法検討・賃金反映継続	○	⇒継続 書面による評価・面談を実施し、評価結果を一時金に反映させた。
	② ICT・ロボット等先進機器の活用による業務の効率化	○	⇒継続 機器の導入や LINEWORKS の有料化に伴い、更なる生産性向上に繋がった。
	③ ノーリフティングケアの普及・実践（委員会等による組織体制作り・環境整備・技術指導等）	△	⇒継続 ノーリフティングケア委員会として、腰痛調査・腰痛予防対策（ヒヤリハットの抽出・対応策の検討・計画の実施・評価）を継続した。
	④ 安全衛生委員会の定期開催（月1回）	○	⇒継続 法令順守に基づき、適切に実施する事ができた。
	⑤ ハラスメント対策の強化 ⑥ 有給取得率の向上（人員配置・勤務体系・役割分担の工夫）	○ ○	⇒継続 年2回の園内研修を継続して実施した。 ⇒継続 5棟編成により、公平に取得率が上がった。
人材育成	① 5棟編成におけるマンパワーの向上	○	⇒継続 リーダー、サブリーダーを中心に新人育成（介護助手含む）を行った。
	② 5棟編成における組織的な職員配	○	⇒終了 介護助手の5棟配置を継続した。「5棟編成機能①」の具体策と統合する。

	置※各棟へ棟リーダー・サブリーダーの配置、介護助手の5棟配置		
	③ 効果的な育成システムの検討・活用。(チューター制度の実施)ワークスタディ(学生)の育成	○	⇒継続 チューター制度・ワークスタディの受け入れを継続した。
	④ 外部研修の参加促進と伝達研修による共有化	△	⇒継続 オンライン・対面の研修を効果的に使い分けた。復命書の作成・活用により、研修内容の共有に努めた。
	⑤ 研究発表等発信機会の確保	○	⇒継続 青森県看護協会にて排泄ケア(D-free)、日本死の臨床研究会にて施設葬ケアについて発表を行った。
	⑥ 内部研修の改善による効率的な実施	△	⇒継続 年間研修計画を作成し、事前に研修予定を共有することで、各棟からの参加者を確保できた。
	⑦ 外部研修等への講師派遣	○	⇒継続 県内外から依頼を受け、多職種(施設長、看護師長、生活相談員、介護主任補佐、管理栄養士、機能訓練指導員)がACP(人生会議)に関する講師・ファシリテーターを務めた。
	⑧ 資格取得に向けた勉強会の実施(ケアマネジャー・介護福祉士・社会福祉士等)	△	⇒終了 資格取得に向けて、勤務調整を行った。今後も資格取得にチャレンジしやすい職場環境を目指していく。
	⑨ 人事評価を通じた人事異動・適正配置	○	⇒継続 リーダー会議による意見を参考としながら、各部門の責任者で人事に関する意見交換・会議を行った。
経営・稼働	① コストを意識した施設運営	△	⇒継続 LINEWORCKS(掲示板)等の活用にてペーパーレス化を強化した。
	② 入所ベッド稼働率 95%以上の堅持	○	⇒継続 3/31 現在で 97.0% 退所者 9名 空床数を減らして稼働率を堅持した。
	③ 短期入所ベッド 4床の稼働率 100%	○	⇒継続 3/31 現在で 96.3%

④ 入院等による空床ベッド稼働率 80%以上堅持	×	⇒継続 3/31 現在 67.4% 7月～10月の4カ月間で退所が7名続き、空床が続いた。その都度調整するも利用に繋がらず、稼働率が低下した。又、これまで空床利用をして下さっていた利用者様の施設入所やご逝去が続いた事も要因の一つである。
⑤ 新たな加算取得・維持・見直し	○	⇒継続 4月1日より「認知症専門ケア加算」の算定を開始した。新たな加算取得に向けて、都度情報収集していく。
⑥ 居宅ケアマネジャーとの情報共有・連携	○	⇒継続 死亡退所・長期入院等による空床発生時、迅速な情報共有を行った。

## 令和6年度 デイサービスセンター三思園 事業評価

**【基本方針】**

- ①質の高いサービス・業務の充実を図る    ②危機管理を徹底する    ③地域連携を図り、福祉の地域還元を図る  
 ④学校法人と社会福祉法人の連携により、相乗効果を図る    ⑤職員の定着しやすい環境づくりを行う

具体策の達成度…【○達成した、△ほぼ達成した、×達成できず】

実施状況・今後の方針等…【⇒継続、⇒変更・追加、⇒一時中止、⇒終了】

(1) 中期的な計画と推進策

計画	推進策	達成度	実施状況・今後の方針等
質の高いサービス提供	①個別ケアの実践（利用者ニーズの把握） ②各委員会活動の充実 ③多職種連携の深化 ④情報共有に関してシステム（ほのぼの）から LINEWORKS を活用した情報共有への移行	○	①⇒継続 本人の状態・意向の把握に努め、個別援助計画を随時見直しし、個別ケアの実践を図った。 ②⇒継続 自分の属する委員会活動に積極的に関わった。 ③⇒継続 各職種にて情報共有を密にし、細やかな連携が図れた。 ④⇒継続 LINEWORKS の活用により、日々の細かな変化、状況の共有が迅速に確実になり、記録も効率化された。
環境整備	① 施設修繕・補修等の実施計画・実施	○	①⇒継続 和室襖の修繕を行い、開閉がスムーズになったことで事故や怪我の防止に繋がった。
働きやすい職場環境づくり	①認証評価取得等に向けた環境改善 ②人事評価の賃金等への反映を通じた意欲向上	△	①⇒継続 現状での取得は困難であるものの、継続して検討及び環境改善を行う ②⇒継続

<p>運営</p>	<p>① 取得加算の維持・見直し ②稼働率の維持・向上 ③コストを意識した運営の徹底</p>	<p>△</p>	<p>①⇒継続 職員配置等の観点から、新たな加算の取得はないものの維持、見直しを適宜に行う。 ②⇒継続 登録人数を余分に設定し、稼働率向上に努めたが、年間を通してショートステイ利用での休みが多く見られる。また、後期は感染症や、入院の休みが多く見られ、平均利用率は 85%となり、昨年度より稼働率が減少となる。7年度は、新規利用者獲得のため新たな圏域居宅へ事業所をアピールし、稼働率 90%を目指す。 ③⇒継続 現状を共有し、コスト意識に努めた。</p>
<p>福祉人材の確保・育成</p>	<p>①人事評価を活用した指導・教育体制の構築 ②キャリアパス・給与体系・評価制度の充実 ③適正な人員配置・人事異動</p>	<p>○</p>	<p>①⇒継続 定期的な OJT の実施。個々の現状、希望などを把握、必要なアドバイスを行った。 ②⇒継続 キャリアアップに向けて、各種研修参加を促した。 ③⇒継続 職員希望にて入所への異動を実施。</p>

(2) 各事業・サービスの課題と対策事業の実施

課題	具体策	達成度	実施状況・今後の方針等
<p>ケアの充実</p>	<p>①地域密着型通所介護計画・個別援助計画に沿った個別ケアの推進</p>	<p>○</p>	<p>①⇒継続 地域密着型通所介護計画・個別援助計画書・アセスメントシートを活用し個別ケアに努めた。</p>
	<p>② 個人の希望、個人に合わせた機能訓練・軽作業メニューの計画・実施・評価(3ヵ月毎) 自己効力感を意識したメニュー作り・見直し</p>	<p>○</p>	<p>②⇒個別に課題点を上げ、活動計画を作成、メニューの充実を図り、実施した。 地域密着型通所介護計画・個別援助計画にて、3ヵ月毎に評価を行い、実施。居宅ケママネへの的確な情報提供に努めた。</p>

	③利用者ニーズの把握と柔軟な対応	○	③⇒継続 ミーティング以外に LINEWORKS にて適宜情報共有を行い、利用者の把握に努めた。要望や意向、状態変化がみられた際は、スムーズに職員情報共有を行えた。
	④ご家族への介護相談・助言・情報共有促進		④⇒継続 本人の状態に変化がみられた際には随時報告し、合わせて助言を行った
	⑤アセスメント内容を LIFE (科学的介護情報システム) へ送信し、ケアの科学的な質の向上を図る	○	⑤⇒継続 3 ヶ月毎の利用者情報を LIFE 連携にて送信し、科学的な質向上を図る。個人状況が把握する機会が増え、より密着したケアに繋がった。フィードバックを元に、計画を見直す機会を設ける。
行事・余暇活動の充実	①余暇活動や行事の企画・準備	△	①⇒継続 事前に計画を立てていたが、準備期間に遅れが生じ、活動内容に変更が生じた。
	②個人の希望、個人に合った余暇活動の提供 (利用者の意向を随時確認し内容を更新する)	○	②⇒継続 利用者ニーズに合わせた余暇活動が展開できた。利用者ニーズの確認が不足であったため、適宜確認を行う。
	③園内で楽しめる行事の提供 (手作りおやつ等) ・隔月での軽食 (焼きおにぎり) の提供 ・季節、行事に合わせた手作りおやつ の提供	○	③⇒継続 季節の行事等で手作りおやつを実施し、利用者の楽しみの場を提供できた。来年度も定期的に要望を聞き、利用者の生活動作維持等を目的とした利用者主体の季節や、行事に合ったメニューを考案して実施する。 軽食提供は実施せず。来年度は、おやつ作りをメインとし適宜軽食提供を行う。
	② 園外での活動 (野菜作り等) ・野菜作りや外出・外食機会の提供 ・移動販売車・お買い物レク等の提供	○	④⇒継続 三思園農園を継続し、利用者それぞれが役割を持って取り組んでいた。収穫した野菜を調理し、育てた野菜を食べる事で更に満足感に繋がられた。 移動販売の実施、希望に応じた近隣のスーパーへの買い物等、充実した活動が行えた。誕生日外出も好評であり、個別に特別な時間を設けられた。(8月に終了)

	⑤年間行事計画を基に毎月の余暇（クラブ、レクリエーション）の提供を行う	○	⑤⇒特養と合同で、年間の行事計画に基づき行事を行った。また、各月で担当を決め、毎月のレクリエーションやクラブが活発に展開できた。
	⑥余暇会議の定期開催（月1回）	○	⑥⇒継続 行事の企画・実施・評価（振り返り）のサイクルについて計画に沿って実施し、余暇活動の質の向上につなげる。
	⑦行事毎に、実施後の評価を行う	○	⑦⇒行事实施後に反省を話し合う。
安全で楽しめる食事提供	①食事前の口腔体操実施・食後の口腔ケア実施	○	①⇒継続 昼食前の口腔体操・食後の口腔ケアを継続実施。
	②嚥下・咀嚼機能・嗜好に合わせた食事形態の工夫	○	②⇒継続 状態に合わせて食事形態の変更を依頼し、状態に合った食事を提供。
	③嚥下機能に合わせたトロミの効果的な活用・勉強会の適宜開催	○	③⇒継続 食事介助・食事姿勢についての方法を適宜確認。
	④季節や行事に合わせた献立	○	④⇒継続 季節に合わせた食事の提供により食べる楽しさを提供。
開かれた施設作り	①苦情・トラブルへの迅速な対応	○	①⇒継続 6/13、2/12 2件発生。いずれも自事業所の送迎車が道路に停車していたため、車が通れないとの苦情。内容確認のうえ丁寧に謝罪し、迅速に対応を行う。トラブル発生時は、適宜早急に対応を行い原因調査に努める。
	②掲示物における苦情処理体制の周知徹底	○	②⇒継続 苦情処理体制について周知するとともに、発生時の対応について事業所内にて共有していく。
	③運営推進会議の開催（年2回）	○	③⇒継続 令和6年8月23日 第一回開催 12名参加（うち職員3名） 令和7年2月28日 第二回開催 13名参加（うち職員5名） いずれも一階ホールにて開催。状況報告を行い、各委員より意見・助言を頂く。

感染症・腰痛対策	①新型コロナウイルス・インフルエンザ等の感染症予防の徹底及び発生時の対応強化・ご家族への協力お願い（県感染情報の活用）	○	①⇒継続 感染症防止対策に留意し、検温の継続・職員の体調管理を実施する。 発熱者及び感染陽性者の利用自粛を行い、事業所内の蔓延防止に努める。 利用中のマスクの着用と、食事席のクリアボードを継続し感染防止に努める。
	②感染症対策委員会の定期開催（6カ月に1回以上+随時開催）	○	②⇒継続 必要時には随時開催し、多職種間での情報共有に努めた。
	③感染症対策指針の整備、研修、訓練（シュミレーション）の実施	○	③⇒継続 新型コロナウイルス関連による感染症対策委員会を随時開催した。研修と訓練（シュミレーション）の実施計画継続。
	④感染症発生時における業務継続に向けた計画の策定、研修の実施、訓練（シミュレーション）の実施	○	④⇒継続 標準予防策とPPE（個人防護具の着脱）訓練の実施。 研修と訓練（シュミレーション）の実施計画継続。
	⑤腰痛予防対策指針（厚生省作成）に基づくケアの推進	○	⑤⇒継続 年2回（5・11月）腰痛健康診断問診票を活用した腰痛調査を実施。
防災・地域福祉	①夜間想定を含めた防災訓練の計画・実施（消化訓練・避難訓練・通報訓練など年2回）	○	①⇒継続 火災避難訓練を実施、実際の動きを想定し利用者の誘導を行う。今後も継続した各災害に対応した訓練を継続して実施する。
	②地域住民と連携した防災体制作り	△	②⇒継続 避難所として地域・町内への周知徹底、体制作り。
	③災害発生時におけるBCP（業務継続計画）の策定、研修、訓練（シミュレーション）の実施。	○	③⇒継続 定期的に拠点単位でのBCP（事業継続計画）について話し合いの場を設け、計画の策定に取り組む。

	④機関紙「春夏秋冬」に替わる、HPの有効活用	○	④⇒変更 定期的なイベントや行事等の活動状況について、各部署の担当者がHPにて公開。
	⑤地域資源（人・場所・環境）や情報（地域課題）の把握 地域貢献としての外部向けデスカフェ開催（開催内容・時期の工夫）	△	⑤⇒継続 地域交流を図り、多世代の関わりを設けることが出来た。地域の課題の把握に欠けたため、次年度情報収集を行う。 ・7/4 横内クリーン作戦に参加。横内中学と地域住民と地域の清掃を行う。 ・横内祭りへ参加。地域住民と交流を図る。 ・9/21 大学の学園祭に参加、多世代交流を行う。
	⑥関係機関とのネットワーク構築・顔の見える関係作り（地域ケア会議への出席）	○	⑥⇒継続 行方不明高齢者 SOS ネットワーク研修へ参加し、事例の共有、意見交換を行い、ネットワーク構築・顔の見える関係作りに努めた。
	⑦ホームページによる情報公開・透明性の確保	○	⑦⇒継続 運営推進委員会開催内容及び行事等について、随時更新、情報発信を実施。
	⑧地域との連携を図る目的として、ボランティア募集のチラシを作成 ・特技や趣味を活かした交流の場づくり ・農作業等を通じた交流の場づくり	×	⑧⇒継続 地域との交流は行えたが、ボランティアに関しては募集実施できず。来年度は、近隣の学生や小中学校との交流が図れるようチラシを作成し事業の活性化を目指したい。
	⑨デイサービスセンター三思園の魅力発信として、地域の居宅介護支援事業所へチラシの配布を実施	△	⑨⇒継続 地域の居宅 5 事業所へ利用中の活動を掲載し、併せて空き状況をお知らせする。定期的に発信する機会が不足していたため、来年度はより多くの居宅と繋がりを設けていく。
リスク管理	①ヒヤリハットの活用・情報共有	○	①⇒継続 ヒヤリハット件数増加。4月から2月まで16件。事故発生防止のため、ヒヤリハット内容を職員全体で把握し、予防対策会議を開催。

	②事故発生時および緊急時の迅速な対応	○	②⇒継続 (介護事故) 4月～2月までの事故 6件。うち、市役所報告事故 1件(誤薬) 事故発生時は速やかに対応し、職員全体で把握し予防対策会議を開催。 (車両事故) 0件。今後も細心の注意を払い、車両事故防止に努めていく。
	③リスクマネジメント・リスクアセスメント活用による事故防止	○	①⇒継続 適宜利用者個々のリスクについて話し合い、事故防止を図った。
	④事故防止に関する研修の実施(年2回)	○	④⇒継続 園内研修に参加
	⑤事故防止委員会の定期開催(年2回+随時開催)	○	⑤⇒継続 年2回の他必要時に開催
設備管理・老朽化対策	①必要な修繕・補修の実施計画の作成	○	①⇒継続 効率的なケアや災害・感染症対策を視野に入れた設備修繕・改修を実施
	②必要な物品購入・リース契約の検討	○	②⇒継続 業務に必要な物品の購入、リース契約の検討等により、業務の効率化を図る。
	③車輛の管理・点検・破損等への迅速な対応	○	①⇒継続 乗車前、乗車後の点検を実施し、破損等を未然に防止。
	④ボイラー・電気等の設備に関する業務の整備	○	④⇒継続
法人連携	①青森中央短期大学専攻科福祉専攻実習生の受け入れ	○	①⇒継続 6月6日(木)～6月12日(水)1名受け入れ。
	②学生ボランティアの協力推進	×	②⇒継続 ボランティアの実施が出来なかった。周知不足もあるため、近隣の学校等へ募集を行い、ボランティア推進を図る。

尊厳保持	① 身体拘束に関する記録・同意書作成・必要性の確認・説明	○	①⇒継続 該当する事例なし。事業所として身体拘束を含めた人権擁護の意識を高める活動を継続する。
	②解除時間の増加および拘束廃止に向けた取り組みの実践	○	②⇒継続 該当する事例なし。事業所として身体拘束を含めた人権擁護の意識を高める活動を継続する。
	③身体拘束・高齢者虐待に関する研修の実施(年2回)	○	③⇒継続 拠点単位で、法令に基づき年2回実施。
	④権利擁護委員会の定期開催(3ヵ月に1回+必要時に随時開催)	○	④⇒継続 拠点単位で実施の委員会へ参加、身体拘束について考える機会を設ける。
働きやすい環境作り	①人事評価の手法検討・賃金反映継続	○	①⇒継続 書面による評価、12月に個別面談を実施。
	②ICT・ロボット等先進機器の活用による業務の効率化	○	②⇒継続 併設する特養と共同し、活用事例を積み重ね、適切な実施につなげる。
	③ノーリフティングケアの普及・実践・環境整備・技術指導等	△	①⇒継続 ノーリフティングケア委員会として、腰痛調査、組織体制づくり、腰痛予防対策の実践(ヒヤリハットの抽出・対応策の検討・計画の実施・評価)の活動を行う。
	④ISO・県における認証評価取得に向けた環境整備・書類整理	×	④⇒継続 整備できず、次年度検討。
	⑤安全衛生委員会の定期開催(月1回)	○	⑤⇒継続 法令順守に基づき、適切に実施する事が出来た。
	⑥ハラスメント防止対策の強化	○	⑥⇒継続
人材育成	①効果的な育成システムの検討・活用	○	①⇒継続 業務に係る習熟度を確認するためのリスト・項目を整理、人材育成の指標とした。

	②外部研修の参加促進と伝達研修による共有化	○	②⇒継続 研修への積極的参加。職員間での共有を図る。
	③全国・県内の研究発表会への参加発表	×	③⇒継続
	④内部研修の改善・見直し	○	④⇒継続 特養と共同した研修機会を確保。 今年度より必須の取り組みとなり、事業所にて入浴業務に特化した研修の企画・実施。
	⑤外部研修等への講師派遣	×	⑤⇒継続
	⑥資格取得に向けた勉強会の実施	○	⑥⇒継続 入浴加算Ⅱについて、研修を実施。
	⑦人事評価を通じた人事異動・適正配置	○	⑦⇒継続 人事評価の機会において面談等を通じた人材育成を実施。業務・配置等の適正化の機会につなげている。
経営・稼働	①一日の平均利用者16.2名以上(定員の9割)	×	① ⇒継続 4月～1月までの一日の平均利用者は13.9名で稼働率85%と目標達成できず。ショートステイ利用者が増加、後期では感染症の自粛休みが増加。来年度も引き続き90%の稼働率を目標とする。
	②利用者の担当ケアマネとの情報共有	○	②⇒継続 月一回のモニタリング報告、3ヵ月に一回の評価報告の他に状態変化がみられた際には随時連絡行った。
	③入院等による登録抹消者の見極めと、新規利用者受入判断の質の向上	△	③⇒継続 入院者の担当ケアマネとこまめにやり取りを行い、状態把握に努めた。
	④コスト意識	○	④⇒継続 状況を共有しながら、意識していくよう努めた。

## 令和6年度 特別養護老人ホーム三思園（居宅介護支援）事業評価

【基本方針】		
① 質の高いケアマネジメントの充実・向上	② 介護支援専門員の専門性向上と人材育成	③ 地域連携
④ 効果的かつ安定した経営基盤の構築		

具体策の達成度…【○達成した、△ほぼ達成した、×達成できず】

実施状況・今後の方針等…【⇒継続、⇒変更・追加、⇒一時中止、⇒終了】

### (1) 中期的な計画と推進策

計画	推進策	達成度	実施状況・今後の方針等
介護支援専門員の専門性向上と人材確保	①管理業務の充実、業務内容の平準化を図る。	×	①②③④⇒継続 人材の定着、育成、意欲促進を図ることができなかった。1名退職、1名勝田三思園へ異動。1名特養より異動となり、現在、3名体制。 管理業務を見直すとともに、管理者含む介護支援専門員の件数の見直し、業務の平準化を図ると共に、個々の能力を発揮できるような側面支援、チームケアの促進を図っていく。
	②育成状況に合わせた柔軟な業務体制を検討し雇用の安定を図る。	×	
	③人事評価を活用した職員育成。	×	
	④個々の介護支援専門員のスキルアップを図る。	△	
運営	①特定事業所加算算定の維持。	△	①⇒継続 ケアマネ数の変動により、特定事業所加算Ⅱ～Ⅲを推移。 ②⇒継続 初回、退院連携、入院時情報連携、通院情報等、医療連携関係の加算は積極的に取得できた。 ③⇒変更 前年度と比して件数減少。要介護者の件数、前年度の平均104件。令和7年1月迄の平均95件と低下した。3名体制の目標件数を設定し、件数の増加及び4人体制を目指す。令和7年1月時点、90件。次年度の目標件数、平均100件
	②取得加算の維持	△	
	③標準件数見直しに伴う対応、業務の効率化。	×	

(2) 各事業・サービスの課題と対策事業の実施

課題	具体策	達成度	実施状況・今後の方針等
事業所としてのスキルアップ	①一連のケアマネジメント業務の遂行、法令遵守。自主点検表を用いての点検、評価。 ②利用者の情報共有等を目的とした会議開催。 ③医療連携の充実。 ④多様化、複雑化する課題への対応。 ⑤ミニカンファレンス実施、ケアマネジメントの共有化。質の向上、平準化を図る。	○  ○  ○ ○  △	①⇒継続  ②⇒継続 週1回開催。  ③⇒継続 入退院時の医療連携を図ることができた。 ④⇒継続 勉強会、事例検討会へ参加。  ⑤⇒継続 困難事例の共有、検討。社会資源の共有。
専門性向上と人材育成	① 個別研修計画の作成、実行。 ② 外部、内部の研修参加促進と伝達研修による共有化。 ③管理業務の充実、件数管理。業務の平準化を図る。 ④個別面談の実施。個別目標の評価、達成状況の確認。 ⑤適宜同行訪問を実施し、指導、助言を行う。 ⑥主任介護支援専門員の育成。 ⑦資格取得に向けた意欲支援。取得実現に向けたフォロー体制の確立。	○ ○ ×  △  △  △ △	①⇒継続 ②⇒継続 web、集合型の外部研修へ参加。内部研修への参加、伝達研修実施できた。 ③⇒継続 管理者、介護支援専門員の件数見直し、平準化を図る。業務内容、育成状況に合わせて、個々の能力を尊重し、適宜、側面支援を行う。 ④⇒継続 ⑤⇒継続 新任職員のケース、引継ぎ等、適宜同行。 ⑥⇒継続 ⑦⇒継続

地域連携	<p>①法人の地域貢献活動の計画、実施。</p> <p>②地域包括支援センターとの連携、連絡会への参加。</p> <p>③域ケア会議への事例提供、参加。</p> <p>④他法人の運営する居宅介護支援事業所と共同の事例検討会、研修会等の計画、実施。</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>① ⇒継続</p> <p>② 包括連絡会へ参加。</p> <p>③ ⇒継続 事例提供を行った。</p> <p>④ ⇒継続 年1回参加。支援困難事例の検討。</p>
効果的かつ安定した経営	<p>①特定事業所加算Ⅱ維持。</p> <p>②現状の取得加算維持。</p> <p>③標準件数見直しに対応し、増収を目指す。</p> <p>④要介護認定調査の受託。</p>	<p>×</p> <p>△</p> <p>×</p> <p>△</p>	<p>① ⇒継続 ケアマネ人数により、加算Ⅱ～Ⅲを推移。</p> <p>⑤ ⇒継続 積極的に取得できた。</p> <p>⑥ ⇒変更 件数減少、減収となった。</p> <p>⑦ ⇒変更 新任職員、1名調査員追加登録。</p>
感染症対策 防災対策	<p>①感染症対策の指針の整備、研修、訓練（シュミレーション）の実施</p> <p>②感染症発生時における業務継続に向けた計画の策定、研修の実施、訓練（シュミレーション）の実施。</p> <p>③災害時における業務継続に向けた計画の策定、研修の実施、訓練（シュミレーション）の実施。</p>	<p>○</p>	<p>① ⇒継続</p> <p>②③⇒継続。 定期的に拠点単位でのBCP（事業継続計画）について話し合いの場を設け、計画の策定に取り組む。</p>
尊厳保持	<p>①高齢者虐待防止に関する委員会の開催、指針の整備、研修の実施。</p> <p>②権利擁護委員会の定期開催</p>	<p>△</p> <p>△</p>	<p>① ⇒継続</p> <p>② ⇒継続 他職種で事例検討、情報共有を図る。</p>
働きやすい環境づくり	<p>①安全衛生委員会の定期開催。 ハラスメント対策の強化。</p> <p>②ICT活用の促進、業務効率化、業務負担の軽減を図る。</p>	<p>○</p> <p>×</p>	<p>① ⇒継続</p> <p>② ⇒継続</p> <p>Eメール、LINEワークスの活用。職員間、サービス事業所、ご家族との連絡手段の効率化を図る。</p> <p>書類保存のデータ化促進。情報共有、効率化を図る。</p>

令和6年度 特別養護老人ホーム勝田三思園（短期入所含む）事業評価

【基本方針】

- ① 利用者の人権を尊重し、良質かつ安全・安心なサービスを提供します。
- ② 利用者主体に行動する良質な福祉人材を育成します
- ③ 社会的ルール、モラルを尊重し、公共的・公益的かつ信頼性を育むように努めます。
- ④ 地域における福祉システムの構築に主体的に関わります。

具体策の達成度 … 【○達成した、△ほぼ達成した、×達成できず】

実施状況・今後の方針等…【⇒継続、⇒変更・追加 ⇒一時中止、⇒終了】

(1) 中期的な計画と推進策

計画・課題	推進策	達成度	実施状況・今後の方針等
専門性の高い ケアの提供	①個別ケアの充実	○	⇒継続 本人の状態に応じた個別ケアを継続している。
	②尊厳を守る看取り介護の充実	○	⇒継続 適宜の人生会議の開催、状況に応じた柔軟な面会及びグリーフケアを行い、利用者本人の尊厳を守った看取り介護を継続。多職種での情報共有強化にて、よりよい看取り介護に繋げたい。
	③個別に適した食事の提供	○	⇒継続 利用者の状態、嗜好に応じて柔軟に対応している。
	④機能維持から看取り期までの 多様なリハビリの実践	○	⇒継続 看取り介護においても、離床機会や活動機会の確保を図る事や、ベッド上での安楽な体位を支援するポジショニングを実践することができた。また、家族等の協力を得、体を擦る、マッサージをする等の安心できるためのケアや機能訓練も実施。
	⑤感染症予防・感染対策の実施	○	⇒継続 発熱時や体調変化時に、速やかに居室対応とし感染拡大を防止できた。多職種間での情報交換を密に行い、連携構築により対応。
地域福祉の向 上	①地域福祉・医療機関との連携 向上	○	⇒継続 本人・家族の希望を踏まえ、必要時に協力医療機関等と連携を図っている。
	②公益的な取り組み、地域住民 との交流を通じての地域貢献	○	⇒継続 運営推進会議は2カ月に1度開催。冬期間の町内ゴミ捨て場の除雪を含めた地域の活動や行事等に参加し、地域住民との交流ができています。

	③災害時における地域住民との協力・連携・定期的な訓練	△	⇒継続 町内実施の防災訓練に参加。
働きやすい職場環境づくり	①仕事と育児・介護等が両立できる職場環境の整備	○	⇒継続 看護休暇・有給休暇取得時、他職員と連携・協力できる体制を整備。
	②キャリアアップ・資格取得しやすい職場づくり	○	⇒継続 事業所として必要な資格取得に関して、職員の適正・希望等を踏まえ、取得しやすい環境作りを行っている。
	③ICT・ロボット等先進機器の活用による業務の効率化	○	⇒継続 ラインワークスカレンダーの活用にて情報共有、業務の効率化を図っている。
	④リスクマネジメントの実践による業務改善・環境整備	○	⇒継続 リーダー会議、運営委員会会議、安全衛生委員会会議にて、意見収集を行い、業務改善、環境整備に努めた。
	⑤ノーリフティングケアの実践	○	⇒継続 令和6年度あおもりノーリフティングケア推進事業において、モデル施設として総合マネジメント研修に参加。来年度以降はノーリフティングケア推進法人、及びノーリフティングケア推進リーダーとして活動予定。
人材育成	①効果的な育成システムの構築	△	⇒継続 リーダー、サブリーダーを主体とした育成を実施。チューター制度の導入、事業所全体での育成体制の構築が必要。
	②人事評価を通じての適正な人事異動・適正配置	○	⇒継続 人事評価を通じて、個々の資質・適性を見極め、ユニット配置・異動を行った。
	③キャリアパスの充実	△	⇒継続 段階的なキャリアパスの構築を図り、職員が目的意識を持てるよう体制を整えていく。
安定した経営	①各加算の維持・見直し	○	⇒継続 各加算の維持、適宜見直しを行い、加算取得に必要な研修等受講していく。
	②稼働率の維持・向上	×	⇒継続 入居は稼働率97%、短期入居は稼働率85%と維持できなかった。入居・短期入居共に看取りでの退居が続き、入居予定者のキャンセル等もあり、調整が難しかった。

	③コスト意識を高めた施設運営	△	⇒継続 物価高騰、感染対策等の影響、設備等の修繕も重なり、必要経費が増大。法人本部との情報共有、コスト削減に努め、コスト意識をもって取り組んだ。
--	----------------	---	--

(2) 各事業・サービスの課題と対策事業の実施

課題	具体策	達成度	実施状況・今後の方針等
ケアの充実	①個別ケアの充実	○	⇒継続
	②24時間シートの活用	△	⇒継続 ケアに応じた随時の見直しをし、活用していく。
	③ユニット内レクリエーション等の企画・準備・調整・実施	○	⇒継続 各ユニットでの誕生会の他、協力ユニットと合同レクリエーションを実施し、交流の幅を広げている。
	④外出機会・行事の拡大	○	⇒継続
	⑤個人の希望等を尊重した余暇活動の充実（散歩・外出・帰宅他）	○	⇒継続 近隣スーパーへの買い物や墓参り等、希望を尊重し対応している。
	⑥科学的根拠に基づく介護の実施	○	⇒継続
	⑦認知症を理解したケアの実践（認知症介護に関する実践的な研修の受講者による発信）	×	⇒継続 認知症介護実践者研修受講予定の職員の退職に伴い未達成
	⑧生活に対する意向・要望の定期的な確認	○	⇒継続
	⑨行事・広報係による行事の企画・準備	○	⇒継続
	⑩リーダー会議の定期開催（月1回、必要時随時）	○	⇒継続
	⑪行事・広報係による全体レクリエーションの企画・準備・実施（随時）	○	⇒継続
尊厳の保持	①身体拘束に関する記録・同意書作成・必要性の確認・説明	○	⇒継続 身体拘束等に係る該当者なし。

	②身体拘束廃止・高齢者虐待防止に向けた取り組みの実践・見直し	○	⇒継続
	③身体拘束・高齢者虐待等適正化のための指針の共有・見直し	△	⇒継続 指針の共有はできたが、見直しに至らず、来年度見直し予定。
	④身体拘束（年2回）・高齢者虐待（年2回）に関する研修の実施	○	⇒継続 R6.6.25、12.27「身体拘束について」 R6.9.5、R7.3.12「高齢者虐待について」園内研修実施。
	⑤権利擁護委員会の定期開催・会議内容の全職員への周知（3カ月に1回、必要時に随時開催）	○	⇒継続
リハビリの充実	①多職種との連携による個別機能訓練計画書の作成・見直し・評価（3カ月に1度の見直し）	○	⇒継続 個別機能訓練加算ⅠⅡ、及び短期入所での機能訓練体制加算を算定。
	②個別機能訓練の充実	○	⇒継続
	③生活リハビリを意識した関わり	○	⇒継続
	④体操・レクリエーション等を活用した運動・訓練の工夫・見直しの実施	○	⇒継続 各ユニットでの集団体操を実施。参加人数の増加や、体を動かす機会の増加に繋がっている。口腔機能維持を図るための口腔体操も取り入れて実施していく。
	⑤短期入所利用者に自宅での生活が継続できるように個別訓練の実施	○	⇒継続
	⑥ラジオ体操の継続（1日2回午前・午後）	×	⇒終了 ユニット内集団体操の開始に伴い、ラジオ体操の実施を終了している。
	⑦機能訓練指導員、福祉用具専門相談員、ノーリフティングケアチームとの連携による福祉用具の選定	○	⇒継続 委員会やミーティングにおいて、多職種で必要性を検討しながら福祉用具を選定できている。今年度よりノーリフティングケア推進チーム内に福祉用具管理担当者が配置されたため、今後も連携しながら福祉用具

			導入計画・管理を実施していく。
	⑧車椅子シーティング技術・ベッド上ポジショニング技術の習得	○	⇒継続
	⑨リハビリ・口腔・栄養委員会の定期開催（月1回）	○	⇒継続
看取り介護の充実	①人生の最終段階における医療・ケア決定プロセスに関するガイドラインの共有	○	⇒継続
	②人生会議（ACP）の実践（本人の意思決定を基本に・入居時・状態変化時・適切なタイミングで・繰り返し行う）	○	⇒継続 状態変化時の情報共有を密に行い、人生会議開催へ繋げた。
	③施設サービス計画書（看取り介護計画）の作成・見直し・同意書作成	○	⇒継続 看取り期におけるご家族同席の人生会議開催、施設サービス計画の見直し(看取り介護計画の作成)、看取り介護同意書作成を実施することができた。
	④看取り介護指針・緊急時マニュアルの共有・見直し	○	⇒継続
	⑤医師・医療機関との連携および24時間連絡体制の確保	○	⇒継続
	⑥医療的ケア（経管栄養注入・痰吸引）の確保（喀痰吸引等研修の受講者数増）	○	⇒継続 介護職員2名選出し、喀痰吸引等研修受講。来年度も2名選出、受講予定。
	⑦最期まで口から食べる（お食い締め）サポート	○	⇒継続 最期まで口から食べることができるようミールラウンドを実施。ポジショニングを行い、安楽な姿勢の保持や完全側臥位を試行する等サポートしている。また口から食べることが難しい場合は、家族に協力していただきながら香りを感じて頂く等のケアを行った。

	⑧静養室（居室）の環境整備	○	⇒継続 居室での看取りも実施。状況に応じた柔軟な看取り介護が行えるよう静養室・居室の環境整備に努めている。
	⑨感染症に留意し柔軟に対応した面会の実施	○	⇒継続
	⑩お別れ会の執行・思い出のアルバムを活用したグリーフケア	○	⇒継続 家族の希望により、施設葬を実施。看取りの方のお別れ会も継続して実施。また職員と一緒にエンゼルケアを行うことでグリーフケアに繋がっている。
	⑪看取り介護の振り返り（事例ごとに実施）	△	⇒継続 看取り後、速やかに振り返りができなかつたため、迅速に開催していく。
	⑫ACP 推進委員会の定期開催（2カ月に1回）	○	⇒継続
	⑬看取り介護に関する研修の実施（年1回）	○	⇒継続 R6.9.13とR6.11.13研修実施。看護職員と生活相談員が講師となり、各専門職の視点からの研修を実施。
	⑭「どせばいい？カード」を活用した看取り介護の研修	×	⇒継続 今年度「どせばいい？カード」を活用した研修は実施できなかった。法人の取り組みとして、全職員が「どせばいい？カード」を体験し、人生会議の疑似体験を通して発信できるよう今後も研修に取り入れる。
褥瘡予防対策	①褥瘡発生における危険因子のアセスメント	○	⇒継続
	②褥瘡対策に関するスクリーニング・ケア計画書を用いて褥瘡評価をし、計画書の作成。	○	⇒継続
	③床ずれ防止用具（リース）の活用・見直し	○	⇒継続 今年度は入居者4名が床ずれ防止用具(マットレス)をリースで使用。今後も施設所有の床ずれ防止用具を活用しながら、状態に合わせて随時見直しを実施していく。
	④除圧の実施（背抜き・体位変換等）	○	⇒継続
	⑤皮膚の清潔・保湿・適切な処置	○	⇒継続
	⑥効率的・効果的な排泄用品の選定・見直し・	○	⇒継続

	活用		
	⑦個々に合った時間（おむつ交換・トイレ誘導）・ランクの見直し・変更	○	⇒継続 褥瘡排泄委員が主体となり、適宜見直し、検討を実施。
	⑧入居者の状態に応じた排泄援助（おむつ交換・トイレ誘導）	○	⇒継続
	⑨入居者の状態に応じた入浴・見直し・変更	○	⇒継続
	⑩褥瘡予防対策指針の共有・見直し・変更	○	⇒継続
	⑪褥瘡・排泄委員会の定期開催（月1回）	○	⇒継続
感染症・腰痛対策	①室温・温度の管理徹底（気温・湿度の記録）	○	⇒継続 各ユニットで「温度・湿度・換気管理表」を活用。
	②園内放送による定期的な換気の実施	○	⇒継続
	③新型コロナウイルス・インフルエンザ等の感染症予防の徹底及び発生時の対応強化	○	⇒継続
	④県の感染情報をもとに面会制限の実施	○	⇒継続 園の感染情報を基に、面会制限については法人本部とも情報共有し検討している。
	⑤法人本部との情報共有・連携による感染対策強化	○	⇒継続 法人本部からの情報発信・共有、連携により感染対策を強化。
	⑥腰痛予防対策指針（厚労省作成）に基づくケアの促進	○	⇒継続
	⑦ラジオ体操の継続（1日2回）	×	⇒変更・追加 ユニット内集団体操の開始に伴い、ラジオ体操の実施を終了している。今後はストレッチや軽体操など、職員の腰痛予防に向けた取り組みを安全衛生委員会で検討していく。
	⑧ノーリフティングケアの普及・実践	○	⇒継続
	⑨感染症対策マニュアル、感染防止に関する指	○	⇒継続

	針の整備・見直し・変更		
	⑩感染症発生時における業務継続に向けた計画の策定、研修の実施、訓練（シミュレーション）の実施（年2回）	○	⇒継続
	⑪感染症対策に関する研修、訓練（シミュレーション）の実施（年2回）	○	⇒継続
	⑫感染対策委員会の定期開催（3カ月に1回、必要時に随時開催）	○	⇒継続
安全で楽しめる食事提供	①栄養ケア計画書の作成・計画内容見直し・評価	○	⇒継続
	②嚥下・咀嚼機能に合わせた食事形態の工夫	○	⇒継続
	③疾病に応じた療養食の提供	○	⇒継続 R6年度 療養食対応の入居者0名。今後も医師の指示があった場合には対応していく。
	④定期的な採血データの収集・活用（低栄養者の把握）	○	⇒継続
	⑤適切な補助食品の活用	○	⇒継続
	⑥嚥下機能に合わせたトロミの効果的な活用・勉強会の適宜開催	○	⇒継続 ユニット毎で適切なトロミの濃さについて指導を実施。
	⑦入居者・職員が一緒に楽しめる食事の工夫	△	⇒継続 コロナ禍以降行っていなかったユニットでの手作りおやつ調理・提供を再開。
	⑧季節や行事に合わせた献立	○	⇒継続 食材料費高騰を受け、使用食材の見直し等行っている。
	⑨ソフト食の提供・定期的な試食会（委託業者との連携）	△	⇒継続 調理員の入れ替えもあり、都度調理方法などについて指導を行っている。 また、実習生受け入れ期間に合わせて試食会も開催しているが、職員を対象には行えていなかった。

	⑩リハビリ・口腔・栄養委員会の定期開催（月1回）	○	⇒継続
経口維持・ 口腔衛生管理	①歯科医師との連携による口腔機能評価の実施・周知（6カ月毎の再評価）	○	⇒継続
	②経口維持計画書の作成・計画内容見直し・評価	○	⇒継続
	③口腔機能向上・維持のための口腔体操・アイスマッサージの実施（個別での発声・体操・マッサージの実施）	○	⇒継続 今後は集団体操においても、口腔機能維持に向けた口腔体操の実施を目指していく。
	④誤嚥性肺炎予防のための口腔ケア・口腔ケア用品の使用・見直し	○	⇒継続
	⑤歯科医師・歯科衛生士との連携による口腔機能維持・衛生管理の計画的な実施（年2回以上の技術的助言及び指導）	○	⇒継続 歯科医師より「口腔衛生管理にかかわる助言」「口腔ケア・マネジメント計画書」を書面でいただき、それをもとに施設としての計画を作成・実施
	⑥リハビリ・口腔・栄養委員会の開催（月1回）及び、ミールラウンドの実施（適宜）	○	⇒継続
	⑦ 口腔衛生体制についての計画作成（年2回以上）	○	⇒継続
リスク管理	①ヒヤリハット・事故の情報共有（掲示板・連絡帳の活用）	△	⇒継続 ほのぼの「掲示板」を活用できず。業務の効率化も図り、来年度はほのぼの「申し送り」を活用し、全体への周知を図っていく。
	②再発防止におけるアセスメント・対応策検討の実施	○	⇒継続
	③事故発生時および緊急時の迅速な対応、家族への丁寧な状況説明およびリスクの説明	○	⇒継続

	④安全に配慮した効果的な福祉用具の選定・活用・見直し（車椅子・手すり・ベッド・マットレス等）	○	⇒継続
	⑤福祉用具の点検・修理	○	⇒継続 ノーリフティングケアマニュアルに沿って、福祉用具管理担当者を中心に管理を行っていく。
	⑥ ICT・ロボット等先進器機を活用したケアに係る情報収集・実践	○	⇒継続
	⑦ 事故防止に関する研修の実施（年2回）	○	⇒継続 R6.9.26とR6.11.26に研修を実施。
	⑧ 事故発生防止のための指針の共有・見直し・変更	△	⇒継続 指針の共有は出来たが、見直しができなかったため、来年度見直しを行う。
	⑨ 事故防止委員会の定期開催（年2回、必要時に随時開催）	○	⇒継続
	⑩ 安全対策担当者の配置	○	⇒継続
	⑪ 事故防止委員会と安全管理対策部門との連携による安全対策の実施	○	⇒継続
家族支援・ 開かれた施設作り	① 苦情・トラブルへの迅速な対応	○	⇒継続
	② 苦情受付体制・マニュアルの整備・見直し	○	⇒継続
	③ 家族懇談会（年2回）	○	⇒継続
	④ 家族アンケートの継続・活用	△	⇒継続 家族アンケートは継続して実施しているが、今年度、活用し切れていなかった。
	⑤ 家族との情報共有強化（来園時・面会時・状態変化時等）および連携	○	⇒継続
	⑥ 面会等の交流機会の確保	○	⇒継続

防災・ 地域交流・ 地域福祉	①災害発生時におけるBCP（業務継続に向けた計画等）の策定、研修の実施、訓練（シミュレーション）の実施。夜間想定を含めた防災訓練の計画・実施（通報訓練・避難訓練・消火訓練等年2回）、水害を想定した訓練の実施	○	⇒継続 計画は今年度策定。 R6.6.26、R6.12.9 BCP（自然災害）研修 R6.9.10、R7.2.28 非常災害対策訓練 R6.11.21 水害・地震を想定した避難訓練 R7.1.29、R7.3.10 火災を想定した避難訓練（総合）
	②地域住民と連携した防災体制作り	○	⇒継続 R6.11.2 松原町会防災訓練に参加。
	③地域・町内の行事・祭り等の活動へ参加	○	⇒継続 R6.7.29 松原町会こどもねぶた観覧。R6.10.13 松原町会文化祭見学。R6.11.2 松原町会秋の松原公園清掃に職員参加。
	④地域包括支援センターと連携した認知症カフェ「笑顔いっぱいカフェ」の開催（認知症勉強会・軽運動等）	×	⇒継続 今年度、認知症カフェの開催ができなかった。来年度は地域包括支援センターと連携し、開催できるよう体制を整えていく。
	⑤地域交流ができる夏祭りの実施	×	⇒変更 今年度、感染症対策、人員不足により夏祭りの開催ができなかった。地域交流ができる飲食を伴わない催し物等を検討していく。
	⑥近隣幼稚園・保育園、小・中・高校生との交流（慰問等）	○	⇒継続
	⑦関係機関とのネットワーク構築（地域ケア会議への出席等）	△	⇒継続 青東地区相談員会議・交流会へ参加できたが、地域ケア会議への出席はなし。
	⑧運営推進会議の定期開催（2カ月に1回）	○	⇒継続 R6.4/24、6/25、8/23、10/29、12/13、2/25 開催。
	⑨ホームページによる情報公開	○	⇒継続 行事以外にも園の取り組みについて発信。
	⑩「どせばいいカード」の普及・実施	○	⇒継続 人生会議の疑似体験として「どせばいいカード」を法人の取り組みとして外部発信。
	⑫地域・社会資源の把握・活用	○	⇒継続

多職種連携 ・情報共有	①システム（ほのぼの・ラインワークス・連絡帳）を活用した情報共有	○	⇒継続 ラインワークスのカレンダーやグループラインを活用し情報共有を図っている。
	②施設サービス計画書の作成・見直し・評価	○	⇒継続
	③個別援助計画書の作成・見直し・評価	○	⇒継続
	④サービス担当者会議の開催	○	⇒継続
	⑤人生会議（ACP）の開催	○	⇒継続
	⑥多職種連携に関する研修の実施（年1回）	×	⇒継続 今年度、実施することができなかったため、来年度実施していく
	⑦入居判定会議の定期開催（年4回、必要時）	○	⇒継続
法人連携	①法人本部との定期的な情報交換・共有（1～2カ月1回、必要時随時）および連携	○	⇒継続 施設長相談員会議を月1回実施し、定期的に情報交換、共有を図っている。
	②法人内における多世代の交流の促進	○	⇒継続 浦町保育園と交流機会を設けた。七夕飾りやお遊戯会見学を実施。
	③実習生（介護福祉士・看護師・栄養士）の受け入れ	○	⇒継続
設備管理・ 補修	①必要な物品購入・リース契約の相談・提案	○	⇒継続
	②車両の管理・点検・破損等への迅速な対応	○	⇒継続
	③ボイラー・電気・エレベーター等の設備に関する管理業務の整備	○	⇒継続
	④施設設備の必要な補修	○	⇒継続 設備等の補修が増え、適宜必要な補修は行っている。
	⑤家族面会時等における駐車場の確保	△	⇒継続 家族会開催時、以前駐車場を借用していた住民へ依頼し、確保できた。開催日や参加人数によっては駐車場の確保が難しいことが予想され、今後も工夫・検討が必要。
働きやすい 環境づくり	①人事評価の手法検討・賃金反映継続	○	⇒継続 人事評価シートによる評価、面談を実施。
	②ノーリフティングケアの普及・実践（委員会	○	⇒継続 委員会内に各担当者を配置し、組織体制づくりを実施。ノーリフ

	等による組織体制作り・環境整備・技術指導者育成・職員への指導・教育等)		ティングケアマニュアルを整備し、更なる取り組みの実践と継続を目指す。
	③ノーリフティングケアモデル施設としての活動による働きやすい環境作り	○	⇒継続 全7日間の日程でノーリフティングケア総合マネジメント研修に参加。また職員2名がノーリフティングケア推進リーダーとして、リーダー研修講師及び実践報告会における報告も行っている。来年度以降は推進法人として自施設、地域での普及・実践を目指す。
	④ICT・ロボット等先進機器の活用による業務の効率化	○	⇒継続
	⑤生産性向上委員会の設置(利用者の安全、介護サービスの質の確保、職員の負担軽減の検討)	○	⇒継続 運営委員会と委員会同時開催。
	⑥有給取得率の向上(人員配置・勤務体系・役割分担の工夫)	○	⇒継続
	⑦ハラスメント対策の強化	○	⇒継続 「ハラスメントについて」園内研修実施。事務室やロッカー室等、職員が確認しやすい位置にハラスメントに関するポスター掲示。
	⑧安全衛生委員会の開催(月1回)	○	⇒継続
	⑨勤務形態・体制の見直し(ユニット間での協力体制の実施、タイムスケジュールの見直し・工夫等)	○	⇒継続 週間表を活用し、ユニット間、他職種との協力体制を強化。
	⑩仕事と育児・介護の両立ができる環境の整備	○	⇒継続 看護休暇取得実績あり。
	⑪キャリアアップ・資格取得しやすい環境の整備	○	⇒継続
人材育成	①各ユニットにおけるマンパワーの向上	△	⇒継続 新人職員への定期的な面談・業務の振り返りを実施しているが、実施できていない職員もいるため、今後調整し実施していく。
	②サブリーダーの配置によるリーダー育成	△	⇒継続 真実の家サブリーダー不在期間があり。職員の適正を見極め配置

	の継続		検討。
	③効果的な育成システムの検討・活用 (チューター制度の実施)	△	⇒継続 主にリーダー、サブリーダーによる育成を継続。効果的な育成システムの構築に至らなかった。
	④運営委員会の開催(月1回)	○	⇒継続
	⑤外部研修の参加促進と伝達研修による共有化	△	⇒継続 認知症介護実践者研修受講予定職員が退職。伝達研修を未実施
	⑥内部研修の改善・見直し	△	⇒継続 必要不可欠な研修は実施。研修への参加人数が少なく、職員が参加できるよう工夫・改善が必要。
	⑦効率的な人材育成の検討	△	⇒継続
	⑧個別での相談環境の整備	△	⇒継続 必要時、相談できる環境を整えたが、日常的な業務における相談できる体制、環境の整備が必要。
	⑨人事評価を通じての人事異動・適正配置	○	⇒継続
	⑩認知症介護に関する研修の受講 (基礎・実践者・実践リーダー・指導者養成)	△	⇒継続 認知症介護実践者研修受講予定職員が退職。認知症介護基礎研修3名受講。
	⑪実習生・職場体験等の受け入れ・指導	○	⇒継続 介護福祉士実習生1名、看護実習生57名、栄養士実習生1名、養護学校清掃実習生1名、中学生職場体験4名、フィールドワーク5名、ワークサポート6名受け入れ。
経営・稼働	①入居(29床)稼働率95%維持	○	⇒継続 稼働率97%
	②短期入居(10床)稼働率95%以上の堅持	×	⇒継続 稼働率85%
	③居宅ケアマネジャー・メディカルソーシャルワーカーとの連携・調整	○	⇒継続 適宜、連絡調整を行った。
	④待機者リストの作成、連絡調整	○	⇒継続 月ごとに待機者リストの見直しを行った。
	⑤各加算の取得・維持・見直し	△	⇒継続
	⑥介護報酬改定に伴う運営の見直し (加算取得・体制等)	○	⇒継続
	⑦コストを意識した施設運営	○	⇒継続